

令和4年度
教育に関する事務の管理及び執行の状況の
点検及び評価報告書



令和5年9月
大東市教育委員会

目 次

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の実施について・・・1

第1 大東市教育委員会の活動の概要

- 1 活動の現状・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- 2 教育委員会の活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

第2 主要な施策の点検・評価

【教育総務部・学校教育政策部】

- 1 学力向上推進事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
- 2 教育研究推進事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
- 3 学校支援事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
- 4 言語活動推進事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
- 5 家庭教育支援事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
- 6 不登校支援・相談事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
- 7 特別支援教育充実事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19
- 8 英語教育推進事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
- 9 地域とともにある学校づくり事業・・・・・・・・・・・・ 23
- 10 G I G Aスクール推進事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25
- 11 I C T活用教育推進事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 27
- 12 学校環境整備事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 29
- 13 学校給食事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 31
- 14 青少年健全育成事業(野崎)・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 33
- 15 青少年健全育成事業(北条)・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 35

第3 点検・評価に関する学識経験者からの意見・・・・・・・・・・ 37

令和4年度事務事業の評価のまとめ・・・・・・・・・・・・・・・・ 39

《教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の実施について》

1. 趣旨

- (1) 大東市教育委員会は、毎年、主要な施策や事務事業の取組状況について点検及び評価を行い、課題や取組の方向性を明らかにすることにより、効果的な教育行政の一層の推進を図るものとしている。
- (2) 点検及び評価の結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに公表することにより、市民への説明責任を果たし市民に信頼される教育行政を推進する。

【参考法令】地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抄）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2. 点検・評価の対象

令和4年度の点検及び評価の対象項目については、令和4年4月から令和5年3月末までの期間において、総合計画、教育大綱、大東市教育ビジョン、まち・ひと・しごと創生総合戦略を基本に、主要な施策・事業から選定するものとする。

3. 点検・評価の実施方法

- (1) 点検及び評価は、施策・事業の進捗状況を総括するとともに、成果と課題や今後の取組の方向性を示すものとし、毎年度1回実施する。
- (2) 施策・事業の進捗状況等を取りまとめ、学識経験者の意見を聴取した上で、教育委員会において点検及び評価を行う。
- (3) 教育委員会において点検及び評価を行った後、その結果を取りまとめた報告書を大東市議会へ提出し、併せて公表するものとする。

第1 大東市教育委員会の活動の概要

1 活動の現状

教育委員会では、令和3年3月に改訂された「大東市教育大綱」の実現を図るための具体的施策となる、令和4年度版実施計画に基づき、計画的かつ着実な事業運営を推進してきた。

さらに、「総合教育会議」においては、本市がこれまで取り組んできた「小中一貫教育」の成果と課題を踏まえ、「義務教育学校等の設置に関する検討報告書（案）」について議論を行うなど、市長と教育委員会が一体となった教育行政の推進に努めてきたところである。

学校教育政策部においては、新教育ビジョンである「だいたう教育ビジョン2022」を活用した授業改善研修や、教職員の資質向上に向けた初任者、2年目、10年経験者研修を実施するとともに、大東市教育研究フォーラムにおいてオンデマンド配信により、市内全教員で個別最適な学びの実現に向けた情報共有を行ってきた。

不登校支援については、子どもたちが学びにアクセスできているかに力点を置いた「学びへのアクセス100%」を掲げてその対応について、将来的な自立をめざした多層的な支援を行うことを各校の担当者等へ研修等を通じて指導した。

また、言語活動推進事業においては、学校司書を全校へ配置することにより、学校図書館の常時開館が可能となり、新規図書館司書配置校においては最大で1.5倍程度増加するなど、小中学校ともに「読書センター」としての機能を果たすことが出来た。さらに、公立図書館と連携し、図書館司書が出前授業を行うことで、「学習・情報センター」としての役割を果たし、「図書館を使った調べる学習コンクール」へ、市内小中学校全校が参加し、全国大会へ17点の作品を出品することが出来た。

全国一律に展開された「GIGAスクール構想」に基づき、一人一台学習者用端末を利用した学習環境が構築され、小中学校内の情報機器、ネットワーク環境整備が実施されたことにより、令和4年度からICT活用教育を推進するツールとして、小学校においてはプログラミング学習教材、中学校においてはAI機能等を活用したデジタルドリルの活用を図った。

一方、教育総務部においては、家庭における教育力の向上を目指した家庭教育支援事業では、アウトリーチ型支援の実施や家庭教育に関する情報及び学びの場の提供等、家庭教育支援の活動を実施し、昨年度から始まった家庭教育応援企業登録制度を更に発展させて、登録企業等に委託して企業等の特色を活かした「いくカフェ」を多数実施したことで、「いくカフェ」の裾野を広げ、家庭教育を応援する土壌の醸成の推進を図った。

学校施設については、子どもたちの教育環境の推進のため、老朽化した中学校空調機更新関係や各校整備改修工事を進めた他、「大東市小中学校長寿命化計画」に基づく設計業務及び改良工事に取り組んだ。

学校給食については、小中学校ともに栄養バランスのとれた安全・安心でおいしい給食の提供のため、衛生管理の徹底や日々献立の研究・改善に努めている。また、和食文化の保護、継承のために制定された11月24日の「和食の日」に合わせ、だしを生かした和食献立を実施すると共に、児童生徒、保護者向けに啓発リーフレットを配布し、食育へのアプローチを図る取り組みを行った。

2 教育委員会の活動

(1) 教育長（任期：3年）及び教育委員（定数：4人 任期：4年）

【令和4年度末現在】

役 職	氏 名	当初任命年月日	任 期
教育長	水野 達朗	令和2年5月21日	自 令和3年4月1日 至 令和6年3月31日
委 員 (教育長職務代理者)	太田 忠雄	平成28年9月1日	自 令和3年10月8日 至 令和7年10月7日
委 員	田中 佐知子	平成24年10月1日	自 令和2年10月1日 至 令和5年3月31日 (※退任)
委 員	齊藤 めぐみ	平成30年10月6日	自 平成30年10月6日 至 令和8年10月5日
委 員	中野 健一郎	令和3年4月1日	自 令和3年4月1日 至 令和5年6月30日

(2) 教育委員会会議の開催状況

定例会教育委員会11回を開催し、議案33件（可決33件）、報告1件（承認1件）について審議を行った。

期 日	区分	付 議 案 件
4月19日	定例	教委議案第17号 大東市教育大綱令和4年度版実施計画について
5月30日	定例	教委議案第18号 大東市教育委員会教育長に対する事務委任規則の一部を改正する規則について 教委議案第19号 令和4年6月定例会月議会補正予算（教育関係）にかかる意見聴取について
6月29日	定例	教委議案第20号 大東市教育委員会事務局における標準的な職を定める規則の一部を改正する規則について 教委議案第21号 大東市教育委員会会議規則の一部を改正する規則について 教委議案第22号 令和4年度全国学力・学習状況調査の結果の公表について
7月27日	定例	教委議案第23号 令和4年度大東市一般会計補正予算（補正第6号）【教育関係】に係る意見聴取について 教委議案第24号 旧大東市立北条幼稚園の教育財産の廃止について 教委議案第25号 「令和4年度小学生すくすくウォッチ」の結果の公表について 教委議案第26号 令和5年度使用大東市立小・中学校教科用図書採択について 教委議案第27号 大東市立図書館の指定管理者の指定に関する意見聴取について
9月30日	定例	教委議案第28号 令和4年度文化の日の表彰について 教委議案第29号 令和3年度教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価報告書について 教委議案第30号 「令和4年度中学生チャレンジテスト」の結果の取扱いについて

期 日	区分	付 議 案 件
10月24日	定例	議案なし
11月21日	定例	教委議案第31号 令和4年度大東市一般会計補正予算（第7次）【教育関係】に係る意見聴取について 教委議案第32号 大東市立小・中学校の施設の使用に関する条例の一部改正に係る意見聴取について 教委議案第33号 令和5年度大東市立小・中学校教職員人事基本方針について
12月26日	定例	教委議案第34号 大東市情報通信技術を活用した行政手続に関する条例の施行に関する大東市教育委員会規則について 教委議案第35号 大東市教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則
1月18日	定例	教委議案第1号 大東市教育委員会教育委員に係る人事案件について 教委議案第2号 令和4年度大東市一般会計補正予算（第9次）【教育関係】に係る意見聴取について 教委議案第3号 令和5年度大東市一般会計予算【教育関係】に係る意見聴取について
2月6日	定例	教委議案第4号 大東市立小・中学校の施設の使用に関する条例施行規則の一部を改正する規則について 教委議案第5号 大東市特別職非常勤職員の報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例にかかる意見聴取について 教委議案第6号 令和5年度大東市立小学校及び中学校の管理職人事について
3月27日	定例	教委報告第1号 大東市立小・中学校の施設の使用に関する条例の一部を改正する条例の施行期日を定める規則について 教委議案第7号 令和5年度大東市教育委員会事務局職員人事について 教委議案第8号 大東市教育委員会事務局における標準的な職を定める規則の一部を改正する規則について 教委議案第9号 大東市教育委員会事務局事務決裁規程及び大東市教育委員会文書取扱規程の一部を改正する規程について 教委議案第10号 令和5年度大東市奨学生の選定について 教委議案第11号 大東市公立学校園に対する指示事項について 教委議案第12号 「令和5年度中学生チャレンジテスト」の参加について 教委議案第13号 令和5年度社会教育に関する施策の重点目標について 教委議案第14号 令和5年度大東市社会教育委員の委嘱について

(3) 教育委員会会議の結果の公表状況

教育委員会会議に係る議事録については、一部非公開となった内容以外は、平成22年1月の教育委員会会議の結果から大東市ホームページにおいて公開し、教育委員会の透明性の確保に努めている。

(4) 教育長及び教育委員活動状況

大阪府都市教育委員会連絡協議会等の実施する各種研修会等への参加のほか、教育施策の動向や

教育に関する諸問題の把握及び情報交換等に努めている。また、入学式等各種学校園行事のほか、社会教育関連行事等は、新型コロナウイルス感染症拡大による影響により、規模を縮小しての開催やオンラインを活用して参加することが出来た。

また、教育長については、上記に加え、大阪府都市教育委員会連絡協議会会長の他、国の会議の各種委員として、積極的に大東市教育委員会の取り組みについての情報発信を行った。

活 動 状 況	
4月	1日 大東市立小・中学校新任教職員辞令交付式 4日 大東市立公立学校園長・教頭・主任等合同会 6日 市町村教育委員会教育長会議 15日 大阪府都市教育長協議会 19日 教育委員会4月定例会 21日 北河内地区教育長協議会
5月	10日 大阪府都市教育委員会連絡協議会 12日 全国都市教育長協議会定期総会・研究大会（～13日 山口市） 21日 スポーツ少年団総会 22日 市民体育大会総合開会式 23日 中央教育審議会初等中等教育分科会幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会 25日 社会教育委員会議 30日 教育委員会5月定例会 ／グランドセオリー研究チーム会議
6月	29日 教育委員会6月定例会
7月	1日 幼稚園教育振興連絡協議会保護者講演会 7日 北河内地区教育長協議会 8日 大阪府都市教育長協議会 12日 こども家庭庁設立準備室「就学前のこどもの育ちに係る基本的な指針」に関する有識者懇談会 13日 指定管理者選定評価委員会／大阪府四條畷保健所運営協議会 27日 教育委員会7月定例会 ／グランドセオリー研究チーム会議 29日 第11回大東市教育研究フォーラム
8月	3日 夏季管理職等研修 22日 大阪府都市教育委員会連絡協議会 26日 社会教育委員会議 26日 大阪府都市教育長協議会夏季研修会
9月	7日 大東市人権教育研究協議会全体会 20日 こども家庭庁設立準備室「就学前のこどもの育ちに係る基本的な指針」に関する有識者懇談会 30日 教育委員会9月定例会
10月	7日 大阪府都市教育長協議会 13日 こども家庭庁設立準備室「就学前のこどもの育ちに係る基本的な指針」に

	<p>関する有識者懇談会</p> <p>24日 教育委員会10月定例会</p> <p>28日 中学校給食調理委託事業者総合評価委員会</p>
11月	<p>1日 近畿市町村教育委員会研修大会</p> <p>3日 大東市文化の日表彰式典</p> <p>4日 大阪府都市教育長協議会秋季研修会</p> <p>7日 大阪府文化の日表彰式典</p> <p>9日 北河内地区教育長協議会研修会</p> <p>11日 大東市小中学生弁論大会</p> <p>12日 大東市子育て講演会</p> <p>13日 大東市「図書館を使った調べる学習コンクール」表彰式</p> <p>15日 こども家庭庁設立準備室「就学前のこどもの育ちに係る基本的な指針」に関する有識者懇談会</p> <p>17日 教育委員管外研修（～18日 福山市）</p> <p>21日 教育委員会11月定例会／グランドセオリー研究チーム会議</p> <p>25日 大阪府都市教育長協議会</p>
12月	<p>2日 人権週間記念のつどい</p> <p>16日 中央教育審議会初等中等教育分科会幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会</p> <p>26日 教育委員会12月定例会</p>
1月	<p>9日 成人の日記念行事</p> <p>10日 北河内地区教育長協議会研修会</p> <p>15日 大東市こども会駅伝選手権大会</p> <p>20日 大阪府都市教育長協議会定例会</p> <p>22日 大東市スポーツ少年団新年交歓会</p> <p>23日 北河内地区教育委員会研修会</p> <p>24日 教育委員会1月定例会／北河内地区教育長協議会・人事協議会 ／こども家庭庁設立準備室「就学前のこどもの育ちに係る基本的な指針」に関する有識者懇談会</p> <p>27日 農産物品評会表彰式</p> <p>30日 大阪府都市教育委員会連絡協議会市町村教育委員会研修会／中央教育審議会初等中等教育分科会幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会</p>
2月	<p>1日 総合教育会議</p> <p>6日 教育委員会2月定例会／グランドセオリー研究チーム会議</p> <p>27日 中央教育審議会初等中等教育分科会幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会</p>
3月	<p>16日 こども家庭庁設立準備室「就学前のこどもの育ちに係る基本的な指針」に関する有識者懇談会</p> <p>27日 教育委員会3月定例会</p>

事務事業評価シート

【教育総務部・学校教育政策部 15項目】



【事務事業評価シート】

評価項目	1
------	---

(担当課) 教育研究所

事業名	学力向上推進事業
-----	----------

1. 基礎情報

総合戦略	④確かな学力の向上と教育環境の充実 (1) 学力の向上	分野別計画	大東市教育大綱 重点項目 1 大東市教育ビジョン
------	--------------------------------	-------	-----------------------------

2. 内容

事業概要 (中長期)	全国学力・学習状況調査の着実な結果向上のために、直接的・間接的に施策を展開する。	事業概要 (4年度)	児童・生徒に関わる施策として学力向上ゼミ、市共通到達度確認テスト、大東まなび舎等を実施することで児童生徒の学力向上を推進する。 また、教職員の指導力向上の施策として大東教員スキルアップ講座、学力向上先進地視察研修等を実施する。
令和4年度の取組状況	<p>4月19日 市共通到達度確認テスト実施 (小3・4年国・算/中1・中2国・数・英・社・理)</p> <p>5～3月 学力向上ゼミ (4会場・35回・317名受講) 市内全中学校において、大東まなび舎実施 (のべ約6,000人参加・前年度比2倍) 大東教員スキルアップ講座・出張スキルアップ講座実施 (22回・延べ468名参加)</p> <p>10月 ※学力向上担当者悉皆研修8回を含めて実施 学力向上先進地視察研修 (事前・事後研修含む4回) ※石川県能美市立小中学校において市内20名の教員が参加 (10月14日～15日) 参加者アンケートの肯定的回答100%</p> <p>1月 小学校社会科副読本に係る「ふるさとジュニア検定」の実施 (小学校3年生・受検率96%)</p> <p>通年 教育研究所指導主事の学力向上に係る学校訪問指導の実施 (延べ245回)</p>		

3. 事業費等

区分		令和3年度 (決算)	令和4年度 (決算)	
事業費	内訳	報償費	2,002,000	1,491,000
		旅費		793,120
		需用費	584,185	301,140
		役務費	8,160	8,160
		委託料	14,911,360	16,754,500
		使用料及び賃借料	643,060	727,970
		工事請負費		
		公有財産購入費		
		備品購入費		
		負担金補助及び交付金		
		扶助費		
		補償補填及び賠償金		
		その他	75,000	
		事業費計	18,223,765	20,075,890
		財源内訳	国庫支出金	610,000
	府支出金			
市債				
その他	5,194,000		1,988,000	
うち基金繰入金	3,237,000			
一般財源	12,419,765	17,495,890		

4. 事業評価

(1) 関連する施策KPI

KPIの名称	設定した計画名	計画策定時	現状	目標値
全国学力・学習状況調査の標準化得点 (全国学力・学習状況調査)	第2期大東市まち・ひと・しごと創生総合戦略	令和元年度	令和4年度	令和7年度
		【小学校】国語98 算数99 【中学校】国語98 数学97	【小学校】国語98 算数99 【中学校】国語99 数学98	100以上

(2) 評価指標

指標	指標名	区分	目標年次	単位		令和2年度	令和3年度	令和4年度
			目標値					
指標①	全国学力・学習状況調査の無解答率	成果	令和7年度	%	目標	-	-	①3.5②9.0
			①2.0②5.0		実績	-	①4.1②10.4	①5.6②7.0
	指標の定義	①小学校平均無解答率 ②中学校平均無解答率						
指標②	全国学力・学習状況調査の平均正答率の全国との比較	成果	令和7年度	-	目標	-	-	①0.95 ②0.94
			1	実績	-	①0.93 ②0.91	①0.94 ②0.94	
	指標の定義	平均正答率における全国を1としたときの全国の比較 ①小学校 ②中学校						

5. 担当課評価

担当課評価A (R3評価A)

評価理由	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学力向上ゼミは、中学生のニーズに併せて、「集団個別コース」を募集し、部活動との両立を図ることができるようにしたため、保護者アンケートの肯定的回答は89%と良好であった。 大東まなび舎に係る学校アンケートは、基礎学力の定着・学習習慣が身に付くなど、肯定的回答100%であった。 大東教員スキルアップ講座は、市内小中学校の授業参観を踏まえた各校の取り組みの交流、全国学力・学習状況調査の結果概要の報告など多岐に渡る講座を実施することができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 指標②について、緩やかな改善傾向はみられるものの、依然として課題である。 <p>以上、成果と指標①については、とりわけ中学校で効果が見られたため、評価をAとした。</p>
------	---

◆評価基準 S：目標を大きく上回る成果(100%超) AA：目標どおりの成果(100%) A：ほぼ目標どおりの成果(80%超)

B：目標の成果がやや不十分(80%以下) C：目標の成果があがっておらず、改善を要する(60%以下)

6. 外部評価

外部評価A (R3評価AA)

外部評価コメント	<p>「学力向上ゼミ」について保護者アンケートの肯定的回答が89%は良い結果だ。より大きな信頼や太いつながり、こまめなコミュニケーション等を大切にすることで子どもたちの豊かな学校生活の大きな支えになるはずである。</p> <p>「市共通到達度確認テスト」では、数週間で学力面の調査結果がフィードバックされるという従来の強みが継続されつつ、新たに「hyper-QU」という心理面の調査が導入された。この取り組みには、学力面・心理面双方から子どもたちの状況を把握・改善しようとする志向性がうかがえ、大いに注目に値する。</p> <p>「百聞は一見にしかず」ということで、先進地研修も実施された。直接、訪問校、先生方の熱と子どもたちの目の輝きに触れることでしっかりと刺激をうけると思われるため、これらが学習保障につながるよう期待したい。</p> <p>指標①については、中学生の無解答率が減少傾向にあるが、小学生の無解答率は少し心配の種である気がする。授業科目にかかわらず、子どもの学び方や学ぶ姿勢に視点を当てる取り組みについて、今後さらに考察を深め、学びの結果だけではなく、過程を大切にしたい具体的な評価の仕方等について共有できるように願う。</p>
----------	---

7. 総括

今後の取組	<p>「学力向上ゼミ」について、部活動との両立を意識して開設した「集団個別コース(中2・3対象)」を、令和5年度は中学校1年生まで拡充して開講する。</p> <p>hyper-QUの各校での実施にあわせて、教職員が学級集団を正確にアセスメントできるように、研修を実施した。令和5年度は、より丁寧な見取りを可能にするために、校種ごとの講座を実施する。</p> <p>全国学力・学習状況調査の「無解答率の減少」のために、大東教員スキルアップ講座(各校の学力向上担当者皆研修)において、丁寧な分析結果を伝えるとともに、次年度も引き続きの課題としていく。</p> <p>大東教員スキルアップ講座は、引き続き、教職員の多様なニーズに応じた講座を開講し、好事例の交流をメインにして、市内全体への波及効果をねらう。</p>
-------	--

【事務事業評価シート】

評価項目	2
------	---

(担当課) 教育研究所

事業名	教育研究推進事業
-----	----------

1. 基礎情報

総合戦略	④確かな学力の向上と教育環境の充実 (1) 学力の向上	分野別計画	大東市教育大綱 重点項目 1 大東市教育ビジョン
------	--------------------------------	-------	-----------------------------

2. 内容

事業概要 (中長期)	「だいとう教育ビジョン2022」に基づく全市的な授業改善・授業研究の推進及び教職員研修の実施する。	事業概要 (4年度)	新教育ビジョンである「だいとう教育ビジョン2022」を活用した授業改善研修を実施するとともに教職員の資質向上に向けた各種研修を実施する。
令和4年度の取組状況	<p>4月 新教育ビジョン「だいとう教育ビジョン2022」の活用開始</p> <p>5～2月 授業改善研を伴う校内研修 各校6回以上実施 自主的研究会講師派遣実施</p> <p>5～9月 初任者、2年目、10年経験者研修実施 (法定研修市主催分「授業づくり」「児童・生徒理解」等計8日実施 対象教員のべ271人参加)</p> <p>6・9・12・2月 教育委員会だより「えがお大東っ子」4回配信</p> <p>7月28日 市教育研究フォーラム分科会実施(2講座オンデマンド配信) 大東市立市民会館 8講座 市内幼・小・中学校園の全教職員参加</p> <p>7月29日 市教育研究フォーラム全体会実施(オンデマンド配信) (大東市立総合文化センター) 市内幼・小・中学校園の全教職員視聴</p> <p>12～1月 ビジョン活用アンケート実施(肯定的回答84%)</p>		

3. 事業費等

区分		令和3年度 (決算)	令和4年度 (決算)	
事業費	内訳	報償費	3,237,000	2,248,000
		旅費		
		需用費	404,568	180,092
		役務費		66,000
		委託料		320,240
		使用料及び賃借料	21,780	258,460
		工事請負費		
		公有財産購入費		
		備品購入費		
		負担金補助及び交付金		
		扶助費		
		補償補填及び賠償金		
		その他		
	事業費計	3,663,348	3,072,792	
財源内訳	国庫支出金			
	府支出金			
	市債			
	その他	1,210,000		
	うち基金繰入金	1,210,000		
一般財源	2,453,348	3,072,792		

4. 事業評価

(1) 関連する施策KPI

KPIの名称	設定した計画名	計画策定時	目標値	出典
児童・生徒質問紙における授業改善に関する項目の肯定的回答の割合（全国平均を100としたときの全国比）	大東市教育ビジョン	令和3年度	令和7年度	全国学力・学習状況調査
		96	100以上	

(2) 評価指標

指標	指標名	区分	目標年次	単位		令和2年度	令和3年度	令和4年度
			目標値					
指標①	「教育ビジョン」教員アンケートの肯定的回答の割合	成果	令和6年度	%	目標	80	80	80
			90		実績	76	80	84
	指標の定義	「だいとう教育ビジョン」の教員活用状況アンケートにおける肯定的回答の割合						
指標②	授業改善研を伴う校内研修の実施	活動	令和4年度	回	目標	6	6	6
			各校6		実績	6	6	6
	指標の定義	市内小中学校における授業改善に伴う校内研修の実施回数						

5. 担当課評価

担当課評価A (R3評価A)

評価理由	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各校で人数制限を設けた集合型やオンライン等工夫しながら、「大東教育ビジョン2022」の理念に基づいた授業改善に伴う校内研修を6回以上実施することができた。 自主的研究会は、執行率約7割。好事例をTSPで市内各校に紹介することができた。 教育委員会だより「えがお大東っ子」は、保護者や地域の方の利便性を高めるため、教育委員会と各校のホームページ等を活用して、電子媒体で配信することができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大東市教育研究フォーラム全体会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、教職員のみオンデマンドに切り替えたため、保護者と市民の方が一堂に会することができなかった。 <p>以上、目標となる指標は満たしたが、次年度に課題を残しているため、評価をAとした。</p>
------	---

◆評価基準 S：目標を大きく上回る成果(100%超) AA：目標どおりの成果(100%) A：ほぼ目標どおりの成果(80%超)

B：目標の成果がやや不十分(80%以下) C：目標の成果があがっておらず、改善を要する(60%以下)

6. 外部評価

外部評価A (R3評価A)

外部評価コメント	<p>本事業の柱となる「大東教育ビジョン」において、「意図する」「ゆだねる」「見取る」「つなげる」をすべての教員が理解し、我が校、我が組の実態を把握した上で、実践に励むことが事業の成就には欠かせない。目に見える形での活用の方法が示され、指導案等に盛り込まれるようになったこと等で研究推進事業が前進の兆候がつかめたのではないかとと思われる。その創意工夫、豊かな発想には敬意を表する。</p> <p>また、教育委員会だよりを電子媒体で配信して利便性の向上に努めた点は、保護者・地域の方々への配慮という意味で高く評価でき、情報の発信・提供という意味でも効果的である。他方、大東市教育研究フォーラムについては、当時新型コロナウイルスの影響でオンデマンド型へと切り替え、対象も教職員のみと制限がかかったため、対面型で教職員・保護者・市民が意見交流できる機会の再開に期待したい。</p> <p>指標①及び②とも高評価に値するが、学ぶ、学ぼうとしている子どもの姿で成就の度合いを判断したいと思う。</p>
----------	---

7. 総括

今後の取組	<p>次年度も、市内各校で教員の確かな関わりによる「学び合う」授業づくりを推進できるように、「大東教育ビジョン2022」の効果的な活用について、引き続き、重点的に市内各校への授業参観の指導・助言を行うとともに、「市教育研究フォーラム」においても講話を行う。</p> <p>「市教育研究フォーラム(全体会)」は、集合型での開催を計画し、保護者、市民の方の参加ができるようにする。加えて、当日参加できなかった方のために、オンデマンドで視聴できるよう整える。「市教育研究フォーラム(分科会)」は、次年度も8講座開講し、教職員が選択受講して自己研鑽できるようにすることで、多様なニーズに対応していきたい。</p>
-------	--

【事務事業評価シート】

評価項目	3
------	---

(担当課) 指導・人権教育課

事業名	学校支援事業
-----	--------

1. 基礎情報

総合戦略	④確かな学力の向上と教育環境の充実 (2) 学校・家庭・地域の担い分けと連携	分野別計画	大東市教育大綱 重点項目 2
------	---	-------	----------------

2. 内容

事業概要 (中長期)	各学校の教育課程とニーズに応じて、多様な外部人材を活用できるように支援員等を配置する。ネットトラブル等の問題行動については、警察OBによる巡回指導で未然防止の取り組みと適切な対応を助言する。	事業概要 (4年度)	地域人材の積極的な活用を進め、部活動の専門的な活動の質の向上や教員の負担軽減、個に応じた学習支援、放課後や土曜日の補充学習会の補助等の役割を担う。スクールロイヤーや枚方少年サポートセンター等の関係諸機関と学校をつなぐ場面において、警察OBが専門家の見地から助言を行う。
令和4年度の取組状況	<p>○授業等支援員 年度当初に各校が作成した「活用実施計画書」に基づき、元教員や学生、地域人材などの外部講師を配置。小学校12校で延べ41名、中学校8校で延べ40名の支援人材による個別学習支援、授業支援（理科・音楽・外国語等）、放課後補充学習、日本語指導、教員の授業力向上、ICT活用、理科授業支援、部活動指導等を実施。</p> <p>○クラブ活動等人材活用 「実施計画書」に記載された計画に沿った活用を進め、小学校12校で、延べ34名の支援人材による授業やクラブ活動等の支援。（パソコン、人権学習、ダンス、運動会演技指導等）</p> <p>○中学校部活動指導員 学校から推薦のあった人材について、市教委が面接および研修を行い配置。中学校7校で実人数17名の指導員による運動部・文化部の活動の指導支援。</p> <p>○警察OB相談支援 暴力行為・ネットトラブル・いじめ問題等に対して、学校への助言や児童・生徒への啓発を実施。 支援内容：管理職支援、学校の対応状況聴取、校内巡視、児童・生徒への「防犯教室」講話、教職員向け「生徒指導研修」、法的根拠に基づいた学校の役割指導等</p>		

3. 事業費等

区分		令和3年度 (決算)	令和4年度 (決算)	
事業費	内訳	報償費	8,225,500	8,972,000
		旅費	252,854	369,881
		需用費	141,570	141,570
		役務費	288,000	288,000
		委託料		
		使用料及び賃借料		
		工事請負費		
		公有財産購入費		
		備品購入費	46,400	
		負担金補助及び交付金		
		扶助費		
		補償補填及び賠償金		
		その他	4,101,794	5,386,943
	事業費計	13,056,118	15,158,394	
財源内訳	国庫支出金			
	府支出金	1,593,000	1,913,000	
	市債			
	その他			
	うち基金繰入金			
一般財源	11,463,118	13,245,394		

4. 事業評価

(1) 関連する施策KPI

KPIの名称	設定した計画名	計画策定時	現状	目標値
「学校に行くのは楽しい」と感じる児童・生徒の割合 (全国学力・学習状況調査)	第2期大東市まち・ひと・しごと創生総合戦略	令和元年度	令和4年度	令和7年度
		【大東市】小学校 79.8%、中学校 75.0%【国】小学校 85.8%、中学校 81.9%	【大東市】小学校 81.5%、中学校 74.2%【国】小学校 85.4%、中学校 82.9%	国平均以上

(2) 評価指標

指標	指標名	区分	目標年次	単位		令和2年度	令和3年度	令和4年度
			目標値			目標	実績	実績
①	授業等支援員の適正配置	活動	令和4年度	%	目標	100	100	100
			100			99.3	99.3	91.8
	指標の定義	12月にアンケートを実施し、授業サポート等で追加支援を必要としている学校に対して、年度末までに適正な人員配置を行う（活用100%をめざす）。						
②	部活動指導員配置校における顧問教員の指導時間削減率	成果	令和4年度	%	目標	50	75	80
			80			67.5	55.4	44.7
	指標の定義	全8中学校に対して、会計年度任用職員である部活動指導員を派遣し、顧問教員が別の業務に携わることができた時間をアンケートで計る。						
③	警察OB巡回による状況改善率	成果	令和4年度	%	目標	100	100	100
			100			100	100	90
	指標の定義	週3回の勤務日に小学校、中学校を巡回して生活指導に関する学校からの問い合わせに対応し、法的根拠に基づいた対応を指導・助言する。						

5. 担当課評価

担当課評価A (R3評価A)

評価理由	<p>各校における支援人材の活用は増えており、また支援内容も多岐に渡っていることから、各学校のニーズに応じた授業支援員やクラブ活動等人材、部活動指導員の活用が進んでいる。部活動指導員については活用校が増えたものの、指導時間削減率の実績値は目標値を下回る結果となっており、教員の負担軽減につながるよう改善する必要がある。</p> <p>警察OB活用は、スクールロイヤーへの相談前段階での法的根拠に基づいた学校の対応について、各校から数多くの相談が寄せられ、いじめの重大事態の対応等についても状況改善につなげることができた。</p> <p>以上の結果を踏まえ、目標を達成したものもあるが、課題解決に向けて引き続き取り組む必要があると考え、Aと判断した。</p>
------	--

◆評価基準 S：目標を大きく上回る成果(100%超) AA：目標どおりの成果(100%) A：ほぼ目標どおりの成果(80%超)

B：目標の成果がやや不十分(80%以下) C：目標の成果があがっておらず、改善を要する(60%以下)

6. 外部評価

外部評価A (R3評価A)

外部評価コメント	<p>令和元年度から令和4年度にかけて「学校に行くのは楽しい」と感じる児童・生徒の割合は伸びているとは言えない。大東市だけでなく国も同様である。</p> <p>子どもたちがより専門的な指導に出会えることが学校において最も大切にすべきことのように思う。「分かる」「できる」「集う」「認められる」の4つの『喜び』が子どもたちに明日も学校へ行こう、行きたいと思わせる源であることを学校の先生方は大切に、日々実践しようとしている。外部人材についても同様、子どもたちの喜ぶ姿を目標に取り組みしてほしい。</p> <p>学校支援については、大東市に限らず各地域でみられる共通の課題でもあるため、教職員が適正な業務負担となるようさらなる議論・対策が求められる。子どもたちのための、そして先生方のための人材活用を進めてもらいたい。</p>
----------	---

7. 総括

今後の取組	<p>授業等支援員については、各小・中学校において授業の補助や個別の学習支援、事務作業のサポートや部活動の支援など、学校運営の円滑化や教員の負担軽減に必要な存在である。市教委においては適切な時期に配置を再検討し、追加支援を求める学校への対応を迅速に実施する。部活動指導員配置校における顧問教員の指導時間削減率については、年々低下しており、部活動指導員の役割について改めて周知を行うとともに、適正な活用となるよう継続して指導する。生徒指導事案の低年齢化や暴力行為を繰り返す児童・生徒数の増加に伴い、警察OBについては令和5年度より2名体制で学校を支援している。問題行動の中でも、ネットトラブルのトラブルへの対応で、学校が苦慮することが多いため、事案発生時には早急に警察OBを派遣し、情報の共有と今後の動きへの法的なアドバイスを行う。また、未然防止の観点から課題を抱える学校に対し、指導主事が積極的に訪問を行う。</p>
-------	--

【事務事業評価シート】

評価項目	4
------	---

(担当課) 教育企画室・教育研究所

事業名	言語活動推進事業
-----	----------

1. 基礎情報

総合戦略	④確かな学力の向上と教育環境の充実 (1) 学力の向上	分野別計画	大東市教育大綱 重点項目 1 大東市教育ビジョン
------	--------------------------------	-------	-----------------------------

2. 内容

事業概要 (中長期)	言語環境の一層の充実を図り、「確かな学力」と「豊かなこころ」の育成に資することを目的とした取り組みの一環として弁論大会を開催する。また、「言語活動の育成のために、学校全体で読書活動や学校図書館を活用した授業づくり」をめざし、より一層、主体的・対話的で深い学びを効果的にすすめるために、市内全小中学校へ学校司書を配置する。	事業概要 (4年度)	大東市小中学生弁論大会を開催。 小学6年生、中学生・・・弁論の部 小学5年生・・・1分間スピーチの部 小学4年生・・・展示の部 学校司書連絡会や図書担当者研修の研修会を実施することにより、学校図書館の役割を確認しながら、学校図書館の効果的な活用と充実を図る。 新規配置校や経験のない学校司書については、担当指導主事の学校訪問や市立図書館の支援を得ながら充実を図る。
令和4年度の取組状況	<p>○小中学生弁論大会(11月11日開催)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「弁論の部(小学6年生、中学生)」では、予選応募者(小学生964名、中学生2,551名)から参加があり、うち一次予選(各校)及び二次予選(市教育委員会)を通過した小学6年生5名、中学生5名が本選に参加。 「1分間スピーチの部(小学5年生)」では、市内全小学校から参加があり、各校の代表1名が「わたしの学校」紹介のテーマで自分の学校のよいところや特徴をスピーチ形式で紹介。 「作文展示の部(小学4年生)」では、市内全小学校から参加があり、自由演題「わたしが実現したい夢」、「将来なりたい職業」等について、自分の思いや考えを作文し、11月12日～20日の期間、市民会館1階フロアにて展示発表。 コロナ禍により観客は、参加児童・生徒及びその保護者に限定したため、出場者の発表を動画撮影して同時配信するとともに、各校の言語活動推進の一環として活用できるよう一定期間アップロードした。 <p>○学校全体で読書活動や学校図書館を活用した授業づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 4月～5月 学校司書経験1年目の配置校訪問(計14校) 6月～3月 学校司書連絡会を8回実施 11月 学校図書館教育担当者研修会を実施 6月～9月 図書館を使った調べる学習コンクール出品に係る取り組み(市内全小中学校参加・1,112点) 		

3. 事業費等

区分		令和3年度 (決算)	令和4年度 (決算)	
事業費	内訳	報償費	50,000	50,000
		旅費	190,145	589,562
		需用費	85,800	89,200
		役務費	88,000	88,000
		委託料		
		使用料及び賃借料	96,320	96,320
		工事請負費		
		公有財産購入費		
		備品購入費		
		負担金補助及び交付金		
		扶助費		
		補償補填及び賠償金		
		その他(報酬・職員手当)	8,195,194	24,858,109
	事業費計	8,705,459	25,771,191	
財源内訳	国庫支出金			
	府支出金			
	市債			
	その他		3,000	
	うち基金繰入金			
一般財源	8,705,459	25,768,191		

4. 事業評価

(1) 関連する施策KPI

KPIの名称	設定した計画名	計画策定時	目標値	出典
全国学力・学習状況調査における「書くこと」「読むこと」の平均正答率の全国との比較（全国を1とした場合）	大東市教育ビジョン	令和3年度	令和7年度	全国学力・学習状況調査
		【小学校】0.90 【中学校】0.91	1以上	

(2) 評価指標

	指標名	区分	目標年次	単位		令和2年度	令和3年度	令和4年度
			目標値					
指標①	弁論大会への参加割合	活動	令和7年度	%	目標	100	100	100
			100		実績	88.3	96.3	96.1
	指標の定義	弁論大会における市内小中学校対象児童（小4～6年）・生徒（中1～3年）に対する参加率						
指標②	図書館を使った調べる学習コンクールへの応募数	活動	令和7年度	点	目標	-	-	800
			1,000		実績	200	527	1112
	指標の定義	市内小中学校からの図書館を使った調べる学習コンクールへの応募数						
指標③	読書が好きと答えた児童・生徒の割合	成果	令和7年度	-	目標	-	-	①0.90②0.95
			1以上		実績	-	①0.87②0.94	①0.77②0.92
	指標の定義	全国学力・学習状況調査における読書時間10分以上と回答した児童・生徒の全国との比較（全国を1とした場合）①小学校②中学校						

5. 担当課評価

担当課評価AA（R3評価A）

評価理由	<p>○弁論大会においては、昨年度に引き続き高い参加率を維持できた。また、各校においては、同時配信した動画や、後日アップロードした動画を活用し全学年で発表の様子を共有することができた。しかしながら、コロナ禍の影響もあり、観客を制限した形での開催となったため、仲間や大勢の観客の前で発表する機会・経験を与えることができなかった。</p> <p>○学校司書全校配置により、学校図書館の常時開館が可能となり、とりわけ中学校における1人当たりの貸出冊数は、7校で増加。（増加が見られなかった1校は学校司書の継続校であり、市内中学校全体の貸出冊数の平均は超えている）。新規図書館司書配置校においては、貸出冊数が最大で1.5倍程度増加した。小学校においては、約半数の学校で貸出冊数が増加しており、小中学校ともに「読書センター」としての機能を十分に果たすことができた。小中学校ともに、家庭での読書時間の増加に繋がっているか、検証はできていない。</p> <p>○新規学校司書配置校については、新規学校司書配置校訪問を行うとともに、司書連絡会を市教育委員会及び各校の学校図書館で開催し、市内好事例を交流することで育成支援することができた。</p> <p>○図書館を使った調べる学習コンクールへ、市内小中学校全校が参加し、合計1,112点、前年度比1.47倍）応募し、全国大会へも17点の作品を出品することができた。公立図書館と連携し、図書館司書が出前授業を行うことで、「学習・情報センター」としての役割を果たすことができた。</p> <p>以上のことから、評価をAAとした。</p>
------	---

◆評価基準 S：目標を大きく上回る成果（100%超） AA：目標どおりの成果（100%） A：ほぼ目標どおりの成果（80%超）

B：目標の成果がやや不十分（80%以下） C：目標の成果があがっておらず、改善を要する（60%以下）

6. 外部評価

外部評価AA（R3評価AA）

外部評価コメント	<p>言語活動推進事業は子どもたちの「言葉の力」を育てることが最大の目的である。「確かな学力」、「豊かな心」は確かな言葉の力なくしては実現しない。読書活動や学校図書館を活用することは「言葉の力」にとって大変有効な取り組みだ。</p> <p>小中学校弁論大会でも、昨年度同様96%という高い参加率を継続したことに加え、「図書館を使った調べる学習コンクール」の応募数は昨年度からほぼ倍増の1,112点になる等、目覚ましい成果をあげた。そのうち17点が全国大会へ出品された点からも、言語活動が着実に推進されていることを見て取れる。読書が好きとの回答が目標に届いていないが、指標②図書館を使った調べる学習コンクールへの応募数は、取り組みの成果を図る有効な指標であると思う。</p>
----------	--

7. 総括

今後の取組	<p>学校司書の配置により、学校図書館の「読書センター機能」は、大幅に改善できた。今後は、新聞の複数紙配備、ICT教育戦略課と連携しての「デジタル図書館」の整備にも着手し、より一層の児童・生徒の言語活動の推進をめざす。また、蔵書の貸し借りがスムーズにできるように、「学校図書館システム」のバージョンアップ作業も行う。</p> <p>弁論大会は、次年度も参加率を維持しつつ、児童・生徒がより主体的に自身の思いを表現できるように工夫する。また、仲間や大勢の観客の前で発表することができる機会となるように場を設定する。</p>
-------	--

【事務事業評価シート】

評価項目	5
------	---

(担当課) 家庭・地域教育課

事業名	家庭教育支援事業
-----	----------

1. 基礎情報

総合戦略	④確かな学力の向上と教育環境の充実 (2) 学校・家庭・地域の担い分けと連携	分野別計画	大東市教育大綱 重点項目 4
------	---	-------	----------------

2. 内容

(中長期) 事業概要	<p>家庭教育支援チームを設置。 アウトリーチ型支援の実施や家庭教育に関する情報及び学びの場の提供等、家庭教育支援の活動を実施する。</p>	(4年度) 事業概要	<p>小学1年生全家庭を対象としたアウトリーチ型支援の実施、「いくカフェ」の実施、家庭教育応援企業等登録制度の実施、親学習の充実。</p>
令和4年度の取組状況	<p>○家庭教育支援チームで活動するにあたり、活動方針や活動状況を共有し事業の充実を図る。 ・保健・子ども・教育の担当課長会議(1回)、相談・訪問チーム会議3~6回×12校 計52回)を開催する。 ○保護者と訪問相談員とのつながるきっかけをつくる。 ・公立小学校1年生の全戸家庭へのアウトリーチ型支援を実施する。 (家庭数: 841世帯 家庭訪問件数: 142件 電話訪問: 699件) ○家庭教育について保護者等が学べる機会を提供する。 ・公立小学校4年生の家庭に対して状況把握調査を実施する。(家庭数: 876世帯 回収率: 59.6%) ・家庭教育講演会を開催(大東市PTA協議会と共催)。講師: 親野智可等氏「子育てと家庭教育」 参加者86名 講師と教育長との対談を大東市教育委員会公式ちゃんねるで配信する。 ・家庭教育講習会を開催する。講師: 竹内和雄氏 「情報端末との上手な付き合い方」 参加者64名 ・中学生保護者向けセミナーを開催する。テーマ「読書」 参加者43名 ○保護者が気軽に集えて、ほっと一息つけるコミュニティの場を充実する。 【いくカフェ】 ・家庭教育支援チームを中心に「地域いくカフェ」開催する。(6小学校区 計6回 参加者64名) ・登録企業・団体による主催する「企業版いくカフェ」を委託開催する。(6企業 45回 参加者238名) ・教育委員会事務局が主催する「市教委いくカフェ」を開催する(12小学校及びオンライン開催 計14回 参加者 110名) 【ていーすたいカフェ】 ・不登校児童・生徒の保護者が集える「ていーすたいカフェ」を開催する (4回 参加者29名) ○家庭教育についての情報を提供する。 ・家庭教育応援企業登録企業・団体(登録団体数113件)に家庭教育についての情報をメール配信する(17通)。 ・教育委員会公式ちゃんねるにて家庭教育支援事業の動画を配信する(8本)。 ・登録企業が実施している子育て支援事業を市のホームページで紹介する(5本)。 ○学校や福祉等の関係機関と連携協働を図る。 ・「ネウボランドだいとう」に配置しているSSWが保護者から相談支援を行う(相談件数: 73件) ○相談訪問員の育成を図る。 ・相談・訪問チームのチーフであるSSWに研修実施し資質向上・チーム力強化を図る(職場内研修12回)</p>		

3. 事業費等

区分		令和3年度 (決算)	令和4年度 (決算)	
事業費	内訳	報償費	428,350	441,200
		旅費	1,519,694	1,438,655
		需用費	952,814	520,185
		役務費	551,007	572,455
		委託料	350,000	1,231,110
		使用料及び賃借料	206,880	118,990
		工事請負費		
		公有財産購入費		
		備品購入費		
		負担金補助及び交付金		
		扶助費		
		補償補填及び賠償金		
		その他	34,380,945	29,327,227
		事業費計	38,389,690	33,649,822
財源内訳	国庫支出金	7,640,000	7,658,000	
	府支出金	604,000	604,000	
	市債			
	その他	1,049,000	696,000	
	うち基金繰入金	1,049,000	696,000	
一般財源	29,096,690	24,691,822		

4. 事業評価

(1) 関連する施策KPI

KPIの名称	設定した計画名	計画策定時	現状	目標値
		令和元年度	令和4年度	令和7年度
「学校に行くのは楽しい」と感じる児童・生徒の割合 (全国学力・学習状況調査)	第2期大東市まち・ひと・しごと創生総合戦略	【大東市】小学校 79.8%、中学校 75.0%【国】小学校 85.8%、中学校 81.9%	【大東市】小学校 81.5%、中学校 74.2%【国】小学校 85.4%、中学校 82.9%	国平均以上

(2) 評価指標

	指標名	区分	目標年次	単位		令和2年度	令和3年度	令和4年度
			目標値					
指標①	相談・訪問等で児童・保護者と関わった件数	活動	令和4年度	件	目標	2,000	2,000	2,000
			2,000		実績	1,791	1,901	2,231
	指標の定義	家庭教育に関する状況把握調査に基づく家庭訪問等や、ネウボランドだいとうでの相談件数等の合計						
指標②	相談できる人がいる保護者の割合	成果	令和4年度	%	目標	100	100	100
			100		実績	94.2	86.2	90.4
	指標の定義	家庭教育に関する状況把握調査において、相談できる人がいると答えた保護者の割合						

5. 担当課評価

担当課評価AA (R3評価AA)

評価理由	<p>コロナ禍での制約がある中、アウトリーチ型、サロン型、セミナー型支援を実施するとともに、保護者と地域とのつながりづくりを行い、保護者の悩みや不安を早期発見、早期対応、家庭での孤立を未然に防止することができた。また、家庭教育に関する情報発信を充実したことで家庭教育の重要性を広く周知することができた。</p> <p>家庭教育応援企業等登録制度からさらに発展させたものとして、登録企業等6社に委託して企業等の特色を活かした「いくカフェ」を多数実施したことで、「いくカフェ」の裾野を広げることができ、家庭教育を応援する土壌の醸成の推進を図ることができた。</p> <p>一方で事業を実施していく中で、中学生の保護者から支援体制を構築すること、企業版いくカフェの拠点数を増やすなど地域の偏りをなくす必要があることや「ネウボランドだいとう」の組織体制が曖昧であることから生じる問題が見えてきた。その課題解決を次年度に解決できる体制づくりを行うこともできた。以上のことから目標どおりの成果を得ることができたので評価をAAとする。</p>
------	--

◆評価基準 S：目標を大きく上回る成果(100%超) AA：目標どおりの成果(100%) A：ほぼ目標どおりの成果(80%超)
 B：目標の成果がやや不十分(80%以下) C：目標の成果があがっておらず、改善を要する(60%以下)

6. 外部評価

外部評価AA (R3評価AA)

外部評価コメント	<p>令和4年度も従来のアウトリーチ型・サロン型・セミナー型の支援を継続するとともに、家庭教育応援企業等登録制度により、企業等と協働するなど家庭教育支援が強化された。</p> <p>「いくカフェ」では、その家庭教育応援に登録されている企業と連携し「企業版いくカフェ」を実施されていることは保護者が気軽に集うことのできるコミュニティの場がさらに広がり、素晴らしい取り組みである。不登校児童・生徒の保護者が集える「ていーすたいカフェ」にも期待したい。</p> <p>本事業をしっかりとアピールすることによって、多くの保護者、大人にとっての頼れるよりどころになってもらいたいと願う。</p>
----------	--

7. 総括

今後の取組	<p>家庭教育を応援するため、家庭における教育の状況の把握をし、必要な支援につなげるため、小学1年生の保護者を対象に家庭教育に関する状況把握調査を実施し、小学1年生の保護者に対して、電話か訪問によるアウトリーチ型支援を実施する。</p> <p>家庭教育について保護者等が学べる機会を提供するため、家庭教育についての講習会や講演会を開催する。</p> <p>保護者が気軽に集えて、ほっと一息つけるコミュニティの場として、家庭教育支援チームの相談・訪問チーム員が主催する「いくカフェ」や家庭教育応援登録企業・団体が主催する「企業版いくカフェ」を開催する。また、企業版いくカフェについては、拠点数および開催数を増やす。</p> <p>家庭教育についての情報をSNS等を活用して発信する。</p> <p>子育て世代包括支援センター「ネウボランドだいとう」の組織的な位置づけなど不明確な点について担当部署間で調整を行い、「ネウボランドだいとう」にてスクールソーシャルワーカーが保護者、児童・生徒等の相談支援を行うほか、学校や福祉・医療機関等と連携協働を図るためにケース会議、研修会等に参加する。これにより、学校や福祉等の関係機関と連携協働を図る。</p> <p>相談・訪問チームのチーフとして活動するスクールソーシャルワーカーの資質の向上を図り、12チームある相談訪問員との意見交換を行う。</p> <p>思春期の子どもを保護者を対象に、その時期特有の悩みに対応したセミナーを開催する。</p>
-------	--

【事務事業評価シート】

評価項目	6
------	---

(担当課) 指導・人権教育課

事業名	不登校支援・相談事業
-----	------------

1. 基礎情報

総合戦略	④確かな学力の向上と教育環境の充実 (4) 多様な教育機会の創出	分野別計画	大東市教育大綱 重点項目 2
------	-------------------------------------	-------	----------------

2. 内容

事業概要 (中長期)	不登校の状態にある児童・生徒への支援、また未然防止の取り組みについて、各校が対応を進めるために必要な支援を行う。市教育委員会が運営する教育支援センターでは、児童・生徒の自立支援を「ボイス」で行い、教育相談室での保護者支援と連携させる。	事業概要 (4年度)	コロナ禍における不安の高まりもあり、不登校児童・生徒数の増加傾向は続いており、新たな類型化とその対応について、市教育委員会から各校の担当者等へ研修等を通じて指導する。「ボイス」への入室を希望する児童・生徒、保護者への対応について、民間スタッフによる研修を定例化する。
令和4年度の取組状況	<p>○不登校対応担当者研修会（年3回）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回「学びへのアクセスと組織対応」・第2回「アセスメントと多職種連携」・第3回「起立性調節障害の対応等」について、適切な支援が進むよう、各学校の不登校担当教職員対象に研修を実施した。「学びへのアクセス100%」の考え方については、研修やパンフレット・YouTube・ホームページ等の方法で方針を周知した。 ○教育支援センター「ボイス」 <ul style="list-style-type: none"> ・学校と積極的に連携をとりながら、ICT教育や校外学習・農園活動など、多様なニーズに応える活動内容を充実させ、登録者R3:26人→R4:34人、延べ利用人数R3:661人→R4:962人と、利用者の増加につながった。 ○教育相談室 <ul style="list-style-type: none"> ・70日開室し、相談件数はR3:23件→R4:37件と増加した。不登校に関する相談が増加しており「ボイス」との連携も進めた。施設の工事に伴う活動場所の移転もあったが、来室相談も13件あり、セーフィネットとしての役割を果たすことができた。 ○不登校指導員 <ul style="list-style-type: none"> ・15校に課題に応じて指導員を派遣し、登校しにくい、また教室に入りにくい児童・生徒への支援や、学習保障に従事した。多様な支援を進めるための派遣要望が増加しており、別室運営のノウハウの共有を含めた不登校指導員交流会も実施した。 		

3. 事業費等

区分		令和3年度 (決算)	令和4年度 (決算)	
事業費	内訳	報償費	10,873,960	11,336,400
		旅費		1,500
		需用費	51,380	247,350
		役務費	272,770	470,406
		委託料		
		使用料及び賃借料		
		工事請負費		
		公有財産購入費		
		備品購入費	236,780	320,100
		負担金補助及び交付金		
		扶助費		
		補償補填及び賠償金		
		その他		
		事業費計	11,434,890	12,375,756
	財源内訳	国庫支出金		
府支出金				
市債				
その他		215,000	320,100	
うち基金繰入金		215,000	320,100	
一般財源	11,219,890	12,055,656		

4. 事業評価

(1) 関連する施策KPI

KPIの名称	設定した計画名	計画策定時	現状	目標値
		令和元年度	令和4年度	令和7年度
不登校児童・生徒数（千人率） （大東市教育委員会事務局調べ）	第2期大東市まち・ひと・しごと創生総合戦略	17.8人	39.2人	0人
学びへのアクセス100% アクセスできていない児童・生徒数 （千人率） （大東市教育委員会事務局調べ） 令和4年度以降	第2期大東市まち・ひと・しごと創生総合戦略	-	令和4年度 32.5人	令和7年度 0人

(2) 評価指標

	指標名	区分	目標年次	単位		令和2年度	令和3年度	令和4年度
			目標値					
指標①	教育支援センター「ボイス」の運営・施設面での整備率	活動	令和7年度	%	目標	30	50	60
			100		実績	30	50	70
	指標の定義	民間スタッフによる保護者対応研修やICT環境の整備、感染症対策と増床に向けた準備等、ソフト・ハード両面での整備を完了した割合						
指標②	教育相談室で対応したケースの相談者満足率	成果	令和4年度	%	目標	100	100	100
			100		実績	100	100	95
	指標の定義	現状の悩みや今後の方向性について、解決につながるかたちで相談員とのやり取りが行われた割合						

5. 担当課評価

担当課評価A（R3評価A）

評価理由	<p>「ボイス」の運営については、民間スタッフの支援のノウハウを生かしながら、学校タブレットを利用したICT教育、校外学習や農園活動など、様々な活動を取り入れることにより、安心して個別最適な学習機会を提供することができた。施設面ではソファ等を整備し、2教室での活用が充実した。教育相談室については、不登校についての相談が増えており、学校以外の機関とも連携しながら対応を進めているが、改善まで時間を要するケースも多く、専門機関へのスムーズな接続や幅広い支援策の提案が求められる。ほぼ目標通りの成果を得られていることから、評価をAと考える。</p>
------	--

◆評価基準 S：目標を大きく上回る成果（100%超） AA：目標どおりの成果（100%） A：ほぼ目標どおりの成果（80%超）

B：目標の成果がやや不十分（80%以下） C：目標の成果があがっておらず、改善を要する（60%以下）

6. 外部評価

外部評価A（R3評価A）

外部評価コメント	<p>コロナ禍の影響等から不登校が増加傾向にある中で、研修会などの事業が展開された。「学びへのアクセス100%」の考え方が多様な媒体を通して周知された点は高く評価できる。大東市は不登校0をめざしていることを、さらに大々的に発信、アピールしてもいいのではと考える。</p> <p>「ボイス」の充実や教育相談室については年々工夫、改善がなされ、セーフティーネットとしての機能が果たされてきている。どの子にとっても通いたくなる学校づくりを全力ですすめつつ、「ボイス」におけるICT教育の拡充など個別最適な学習機会の提供も試みられているため、引き続ききめ細かな支援に期待したい。</p>
----------	---

7. 総括

今後の取組	<p>「学びへのアクセス100%」の理念実現のため、学校と教育支援センター「ボイス」との中間地点になる居場所として、学校内の別室を「校内ボイス」として整備していく。そのために、「ボイス」での理念やノウハウを共有しながら、令和5年度は不登校指導員の全校配置を進め、校内において不登校傾向にある児童・生徒の居場所支援充実を図る。教育支援センター「ボイス」については、プログラミング学習・農園活動等の多様な学習機会の提供やセーフティーネットとしてのオンライン支援の充実を図る。保護者への相談機会を拡充する意味からも、教育相談室と「ボイス」、また学校との連携を進めていく。</p>
-------	--

【事務事業評価シート】

評価項目	7
------	---

(担当課) 指導・人権教育課

事業名	特別支援教育充実事業
-----	------------

1. 基礎情報

総合戦略	④確かな学力の向上と教育環境の充実 (3)次代を見据えた、新しい教育の実施	分野別計画	大東市教育大綱 重点項目2
------	--	-------	---------------

2. 内容

事業概要 (中長期)	支援を必要とする児童・生徒一人ひとりの発達段階や特性を的確に把握し、「ともに学び、ともに育つ」学級経営を実践する教員の指導力を向上させ、基礎的環境整備の充実と合理的配慮の提供のために、支援員を配置し、「個別の教育支援計画」の活用を進める。	事業概要 (4年度)	児童・生徒一人ひとりの発達検査を行う発達相談や学校の組織体制について助言する巡回相談、支援学級在籍ではない児童・生徒の支援を行う支援教育支援員、さらに音楽療法や通級指導教室の整備など、多面的多角的に支援を必要とする児童・生徒をサポートする仕組みづくりを進める。
令和4年度の取組状況	<p>○巡回発達相談</p> <ul style="list-style-type: none"> 発達相談：年130回 保護者や教員も同席し、新版K式発達検査を実施した。 巡回相談：年27回 支援教育に関する校内体制、全体の支援のあり方に関する指導を行った。 <p>○幼小中連携</p> <ul style="list-style-type: none"> 早い段階からの計画的な引継ぎを基本として、書類の管理についても重点的に各校園に指導を行った。 巡回発達相談に幼小中の教員が同席し、組織的な引継ぎを行った。 <p>○通級指導教室の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者教室や就学前機関・教員研修等での説明、チラシの配付等により周知をより確実にを行った。 通級指導教室だよりを対象の児童・生徒の保護者及び各校園に年5回配付し、通級指導の活用につなげた。 <p>○通常の学級における支援の必要な児童・生徒への指導支援の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 支援教育支援員を全校に配置し、通常の学級に在籍している支援を必要とする児童・生徒を対象として学校教育活動の補助を行った。 <p>○教職員の資質向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ユニバーサルデザインの観点を取り入れた授業づくり、学校園づくりの推進のため、支援教育コーディネーターによるアンケートを行い、課題を明確にしてその後の取り組みに活用できるようにした。 事例研究及び進路学習、ビジョントレーニングの活用等をテーマに支援教育コーディネーター研修を年4回実施した。また、支援学級担任だけでなく希望者を対象とした研修を実施し、希望校に音楽療法を開催した。 		

3. 事業費等

区分		令和3年度 (決算)	令和4年度 (決算)	
事業費	内訳	報償費	8,417,000	8,320,500
		旅費		
		需用費	44,794	76,604
		役務費	90,000	188,000
		委託料		
		使用料及び賃借料	69,640	56,150
		工事請負費		
		公有財産購入費		
		備品購入費		
		負担金補助及び交付金		
		扶助費		
		補償補填及び賠償金		
		その他		
	事業費計	8,621,434	8,641,254	
財源内訳	国庫支出金			
	府支出金	155,000	241,500	
	市債			
	その他			
	うち基金繰入金			
一般財源	8,466,434	8,399,754		

4. 事業評価

(1) 関連する施策KPI

KPIの名称	設定した計画名	計画策定時	現状	目標値
「学校に行くのは楽しい」と感じる児童・生徒の割合 (全国学力・学習状況調査)	第2期大東市まち・ひと・しごと創生総合戦略	令和元年度	令和4年度	令和7年度
		【大東市】小学校 79.8%、中学校 75.0%【国】小学校 85.8%、中学校 81.9%	【大東市】小学校 81.5%、中学校 74.2%【国】小学校 85.4%、中学校 82.9%	国平均以上

(2) 評価指標

	指標名	区分	目標年次	単位		令和2年度	令和3年度	令和4年度
			目標値					
指標①	発達・巡回相談申込への年度内対応率	活動	令和5年度	%	目標	90	90	90
			90		実績	77	71	84.4
	指標の定義	対象の児童・生徒への発達検査を行う発達相談と支援教育の校内体制を指導・助言する巡回相談の依頼を受け、相談員の日程を調整して迅速に対応する						
指標②	通級指導教室での学習に関するアンケートの肯定的回答率	成果	令和4年度	%	目標	100	100	100
			100		実績	94.8	96	90
	指標の定義	通常の学級に在籍しながら週1回程度、専門的指導を受ける児童・生徒へのアンケート項目「通級指導教室での学習が役立つ」における肯定的回答割合						

5. 担当課評価

担当課評価A (R3評価A)

評価理由	<p>発達・巡回相談についてはコロナ禍の影響で急な予定変更が多かったものの、幼小中で互いの教員の同席を促し、事前の情報共有（ケース会議等）を実施することで、内容の充実を図ることができた。通級指導教室の設置は半数の10校であるが、設置校以外からの指導依頼に対して100%対応できた。また、市教育委員会主催の保護者教室や就学前機関に対してその役割を丁寧に説明することで、保護者の理解促進に努めた。</p> <p>支援教育支援員の活用は全校で確実に進み、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた学校園づくりについて、交流等を通じて具体的なイメージを抱くことができるような研修を実施できた。</p> <p>以上、通級指導については児童・生徒にも有用性が理解されているが、潜在的ニーズの掘り起こしも必要であることから、Aと判断した。</p>
------	--

◆評価基準 S：目標を大きく上回る成果(100%超) AA：目標どおりの成果(100%) A：ほぼ目標どおりの成果(80%超)

B：目標の成果がやや不十分(80%以下) C：目標の成果があがっておらず、改善を要する(60%以下)

6. 外部評価

外部評価A (R3評価A)

外部評価コメント	<p>指標①については、前年度より13ポイント以上向上して84%超になる等、大幅な改善がみられた。指標②については、指導教育支援員を全校に配置した点である。アンケートの肯定的回答率が若干低下する等の課題もみられたが、特別なニーズを持つ層の受け皿を整備・拡充した点は高く評価できる。</p> <p>また、大東市の発達・巡回相談はとても精度が高く、これまでも様々工夫を重ねながら現在も維持され続けていることに敬意を表す。緊急の発達相談にも対応しうる体制について何かアイデアはないものかと思う。</p>
----------	--

7. 総括

今後の取組	<p>巡回通級も含めた通級指導教室の活用が年々増加していることに加え、令和4年度に文部科学省より発出された「学びの場」の適切な見直しに関する通知を鑑み、通級指導教室の全校設置をめざす。また、通級指導教室の設置が大幅に増加したことを受け、指導内容の充実と教員の専門性の向上を図る。また、支援学級担任のみならず、すべての教職員による支援教育の観点に基づいた教育の質の向上をめざし、実践的な学習会の実施、通級だよりの発行による好事例の発信、地域支援整備事業の活用（支援学校教員からの助言）、支援教育支援員の全校配置、ユニバーサルデザインの観点を取り入れた授業づくり等の具体策に取り組んでいく。さらに、支援教育に係る学校支援の充実として、巡回発達相談に関する依頼への対応率を向上させるとともに、保幼子小中の連携として、発達相談への教職員の同席や丁寧なカンファレンスの実施による切れ目ない支援教育を展開する。</p>
-------	---

【事務事業評価シート】

評価項目	8
------	---

(担当課) 指導・人権教育課

事業名	英語教育推進事業
-----	----------

1. 基礎情報

総合戦略	④確かな学力の向上と教育環境の充実 (1) 学力の向上	分野別計画	大東市教育大綱 重点項目 1
------	--------------------------------	-------	----------------

2. 内容

事業概要 (中長期)	令和2年度の小学校、令和3年度の中学校での新学習指導要領実施に伴い、学校教育における英語教育の指導方法を改善しながら、児童・生徒の英語力向上を図る。	事業概要 (4年度)	大阪府公立小学校英語教育6か年プログラム「Dream」を市内全小学校で活用し、外国語活動に対する児童の意欲を向上させる。中学3年生については、10月に実施される英検の受検料を全額補助(3級以上)し、取得率向上をめざす。
令和4年度の取組状況	<p>○Daito English Trial (平成29年～)</p> <ol style="list-style-type: none"> 市教育委員会作成の英検4級程度の練習問題を、宿題や帯学習等で活用した。 中学3年生を対象に、市教育委員会作成の英検4級並びに5級相当のHop検定を各校で実施した。 英検3級受験料の助成希望生徒を対象に、市教育委員会作成のStep検定(英検4級程度)を実施し、助成対象者を決定した。また、英検準2級および2級の助成を希望する生徒については、それぞれ3級、準2級の合格証明書を市教育委員会に提出し、受検料助成対象者を決定した。 Step検定合格者と3級、準2級の有資格者を対象に、キラリエホール等の会場で英検3級、準2級、2級をJump検定として実施。(英検第2回10月9日実施 受検料を助成) 受検者数: 2級35人、準2級69人、3級115人 <p>○大東市英語教育推進研修を市内小・中学校教員を対象にオンライン形式で実施。(学習指導要領に適した授業づくりについて、加配教員が中心的役割を果たしながら授業実践などの好事例を普及)</p> <p>○全小・中学校を指導主事が訪問し、授業参観や聞き取りを行い、英語・外国語教育の取り組み状況を把握した。</p> <p>○小学校12校の1年～6年生全クラスにおいて、DVD教材「Dream」を活用した英語の短時間学習を実施した。</p> <p>○AET(外国人英語指導助手)を各校園に派遣し、外国語授業や活動の補助を通じて、子どもたちの意欲の向上を図った。</p>		

3. 事業費等

区分		令和3年度 (決算)	令和4年度 (決算)
事業費	内訳	報償費	
		旅費	279,000
		需用費	26,214
		役務費	7,685
		委託料	
		使用料及び賃借料	
		工事請負費	
		公有財産購入費	
		備品購入費	
		負担金補助及び交付金	
		扶助費	
		補償補填及び賠償金	
		その他	1,292,520
		事業費計	1,326,419
	財源内訳	国庫支出金	
府支出金			
市債			
その他			
うち基金繰入金			
一般財源	1,326,419	32,717,878	

4. 事業評価

(1) 関連する施策KPI

KPIの名称	設定した計画名	計画策定時	現状	目標値
全国学力・学習状況調査の標準化得点 (全国学力・学習状況調査)	第2期大東市まち・ひと・しごと創生総合戦略	令和元年度	令和4年度	令和7年度
		【小学校】国語98 算数99 【中学校】国語98 数学97	【小学校】国語98 算数99 【中学校】国語99 数学98	100以上

(2) 評価指標

	指標名	区分	目標年次	単位		令和2年度	令和3年度	令和4年度
			目標値			目標	実績	実績
指標①	Daito English Trial各検定への学校参加率	活動	令和4年度	%	目標	100	100	100
			100			100	100	
	指標の定義	1学期のHop検定、夏休みのStep検定を中学校8校で実施し、10月のJump検定に市教育委員会が設定する場所での参加を促す						
指標②	中学3年修了時の英検3級以上取得率	成果	令和4年度	%	目標	20	22	24
			24			22.2	22.8	30.7
	指標の定義	Daito English Trial以外にも年間複数回実施される英検の合格者を含む、中学3年生の3級以上取得割合						
指標③	英語の勉強に対する肯定的回答割合	成果	令和4年度	%	目標	80	83	85
			85			77	76.5	78.2
	指標の定義	3学期に全小学校で実施する市教委作成アンケートの項目「外国語の勉強は好きだ」で肯定的回答(1.2)を選択した児童の割合						

5. 担当課評価

担当課評価A (R3評価A)

評価理由	<p>大東市版英検の認知も高まり、中学3年修了時の英検3級以上取得率については例年よりも大幅に目標値を上回る実績値となった。市としての英語教育推進についても、加配教員を中心とした情報共有(原則英語での授業100%の工夫)やAETの小学校派遣により、好事例の共有が図られている。AETミーティング等においてAET間の情報交換や実践事例の交流を行ったことも、市内の英語教育の向上につながった。</p> <p>一方、全小学校で実施したアンケートにおいて、「外国語の勉強は好きだ」との項目で肯定的回答した児童の割合が令和4年度も目標値を下回ったことは、今後も課題として捉えなければならない。以上の結果を踏まえ、目標を達成したものもあるが、課題解決に向けて引き続き取り組む必要があることから、Aと判断した。</p>
------	--

◆評価基準 S: 目標を大きく上回る成果(100%超) AA: 目標どおりの成果(100%) A: ほぼ目標どおりの成果(80%超)

B: 目標の成果がやや不十分(80%以下) C: 目標の成果があがっておらず、改善を要する(60%以下)

6. 外部評価

外部評価A (R3評価A)

外部評価コメント	<p>評価指標①は100%維持し、指標②については昨年度より約8ポイントも向上して目標値を大幅に上回る成果をあげた。他方、指標③が目標値を下回ったことについて、初等教育段階で英語教育を推進することは学ぶ側・教える側双方にとって難しさがあると思われるが、十分な分析、検証をした方が良いのかもしれない。</p> <p>例えばタブレットで自主学習できるコンテンツを拡充したり、実際に英語圏の人々と会話する機会を設ける等の工夫から、子どもたちの興味・関心にどのように働きかけ、継続する学びに前向きに取り組むことができるような素地を育む。こうした取り組みを通して、英語に対する興味・関心・意欲が高まるよう期待したい。</p>
----------	---

7. 総括

今後の取組	<p>令和4年度に教員及び児童・生徒に対して実施したアンケート結果をもとに、令和5年度当初に実施した市英語教育推進研修において市内の外国語教育の現状等について伝達した。令和5年度は「生きて使える英語力の育成」を目標としており、府の指導主事を招いた研修や英語コーディネーターを中心とする英語教育推進連絡会のメンバーによる情報発信等を企画・実施している。また、ICTの活用と多様な人と会話する機会の充実は、目標達成のために大変重要であり、前者については「STEPS in OSAKA」を、後者については市内各校配置のAETの活用を促進し、「外国語の勉強は好きだ」と回答する児童・生徒の増加につながるよう、継続的に各校に働きかける。Daito English Trialについては、事業実施が英検3級以上の取得率向上につながっており、令和5年度からは助成対象を中学3年生のみならず、全学年を対象とするよう拡充し、早期から英語力向上を意識した取り組みを進める。</p>
-------	--

【事務事業評価シート】

評価項目	9
------	---

(担当課) 教育企画室

事業名	地域とともにある学校づくり事業
-----	-----------------

1. 基礎情報

総合戦略	④確かな学力の向上と教育環境の充実 (2) 学校・家庭・地域の担い分けと連携	分野別計画	大東市教育大綱 重点項目 3
------	---	-------	----------------

2. 内容

事業概要 (中長期)	<p>地域住民が学校運営に参画できる組織を構築し、地域とともにある学校づくりを実現することで、地域教育の活性化をさらに図り、子どもたちの健全育成を効果的に推進する。</p> <p>【実施期間】 令和4年度中に、市内全中学校区において、学校運営協議会を導入。</p>	事業概要 (4年度)	<p>すでに導入している2中学校区を除く、6中学校区において、「学校運営協議会導入に係る研修会」を実施した後、学校運営協議会を導入する。</p> <p>また、これまで実施してきた地域教育協議会における活動内容についても学校運営協議会で熟議し、さらに効果的に実施する。</p>
令和4年度の取組状況	<p>○総合的教育力活性化事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍においても、各地域教育協議会で地域の子どもたちのためにできることを検討し、可能な限り学校支援活動としての取り組みを実施することができた。 ・地域教育協議会主催行事について、1中学校区においてフェスティバルを開催し、地域の子どもたちの活躍の場の設定ができた。 <p>○コミュニティスクール推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全中学校区において学校運営協議会委員を推薦・任命し、学校運営協議会を全中学校区に設置することができた。 ・コミュニティスクールに対する理解を深めるために、文部科学省のCSマイスターである京都光華女子大学准教授 西 孝一郎氏を講師として招聘し、委員対象に研修を実施した。 		

3. 事業費等

区分		令和3年度 (決算)	令和4年度 (決算)	
事業費	内訳	報償費	37,500	22,500
		旅費		
		需用費	23,650	
		役務費		
		委託料	1,234,522	1,600,000
		使用料及び賃借料		7,740
		工事請負費		
		公有財産購入費		
		備品購入費		
		負担金補助及び交付金		
		扶助費		
		補償補填及び賠償金		
		その他(報酬)	15,000	172,500
		事業費計	1,310,672	1,802,740
	財源内訳	国庫支出金		
府支出金				
市債				
その他				
うち基金繰入金				
一般財源	1,310,672	1,802,740		

※令和3年度分は総合的教育力活性化事業とコミュニティスクール推進事業の合計金額

4. 事業評価

(1) 関連する施策KPI

KPIの名称	設定した計画名	計画策定時	現状	目標値
「学校に行くのは楽しい」と感じる児童・生徒の割合 (全国学力・学習状況調査)	第2期大東市まち・ひと・しごと創生総合戦略	令和元年度	令和4年度	令和7年度
		【大東市】小学校 79.8%、中学校 75.0%【国】小学校 85.8%、中学校 81.9%	【大東市】小学校 81.5%、中学校 74.2%【国】小学校 85.4%、中学校 82.9%	国平均以上

(2) 評価指標

指標	指標名	区分	目標年次	単位		令和2年度	令和3年度	令和4年度
			目標値			目標	実績	目標
指標①	中学校区への学校運営協議会導入率	活動	令和4年度	%	目標	-	25	100
			100			-	25	100
	指標の定義	市内全8中学校区のうち、学校運営協議会を導入した割合						
指標②	地域教育協議会主催行事への参加人数 (延べ)	成果	令和4年度	人	目標	11,650	11,650	11,650
			8,000			実績	5,470	6,120
	指標の定義	各地域教育協議会主催行事において、1,000人以上の参加をめざす。						

5. 担当課評価

担当課評価A (R3評価A)

評価理由	<p>総合教育力活性化事業においては、事務局会議を計画的に開催し、コロナ禍においても可能な限り学校支援活動としての取り組みを実施することができた。しかしながら、フェスティバル等集合型の行事については、コロナ禍による影響もあり、多くの中学校区において開催を見合わせる決定となった。</p> <p>コミュニティスクール推進事業においては、学校運営協議会を全中学校区に設置することができた。しかしながら、設置初年度ということもあり、どのような取り組みを進めていくか熟議されるというところまで委員の交流が進まず、次年度に向けての議論が中心となった。</p> <p>以上のことから、評価をAとした</p>
------	---

◆評価基準 S: 目標を大きく上回る成果(100%超) AA: 目標どおりの成果(100%) A: ほぼ目標どおりの成果(80%超)

B: 目標の成果がやや不十分(80%以下) C: 目標の成果があがっておらず、改善を要する(60%以下)

6. 外部評価

外部評価A (R3評価A)

外部評価コメント	<p>評価指標①は100%であり、目標を達成できた。また、会合時間を夕方～夜の時間帯に設定している点には、日中別の仕事をしている学校運営協議会委員への配慮が感じられた。評価指標②については、昨年度より増加したものの、新型コロナウイルスが流行した時期もあり目標値には届かなかった。</p> <p>地域の方々と学校職員が顔をつき合わせて取り組み、作業することで相互理解を深め、平たく言うならば仲良くなることが「地域とともにある学校」への時間はかかるが一番の近道だと考える。</p>
----------	--

7. 総括

今後の取組	<p>総合的教育力活性化事業である地域教育協議会の取り組みにおいては、学校・家庭及び地域社会の連携により、地域の子どもの豊かな人間関係づくりを通して、子どもを健全育成し「生きる力」を育むことを目的としている取り組みである。地域教育協議会主催行事は、コロナ禍により実施できていない状況が続いていたが、徐々に再開しており、地域の子どものために各地域教育協議会の状況に応じたさまざまな学校支援について検討、実践するために、今後も各地域教育協議会にその事業を委託する。</p> <p>コミュニティスクール推進事業である学校運営協議会の設置は、地域とともにある学校づくりのために必要不可欠なものである。令和4年度からは全中学校区において学校運営協議会を設置した。今後は校区において「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて学校運営協議会を年間3回以上実施し、地域教育協議会と連携しながら具体的な取り組みの議論を深める。また、各学校運営協議会の交流を促し、活動を促進させるために次年度も情報交換会を実施する。</p>
-------	---

【事務事業評価シート】

評価項目	10
------	----

(担当課) ICT教育戦略課

事業名	GIGAスクール推進事業
-----	--------------

1. 基礎情報

総合戦略	④確かな学力の向上と教育環境の充実 (3) 次代を見据えた、新しい教育の実施	分野別計画	大東市教育大綱 重点項目 1
------	---	-------	----------------

2. 内容

事業概要 (中長期)	<p>全国一律に展開される「GIGAスクール構想」に基づき、一人一台学習者用端末を利用した学習環境を構築するために、小中学校内の情報機器、ネットワーク環境の整備を実施していく。</p> <p>【実施期間】 令和元年度～</p>	事業概要 (4年度)	<p>校内ネットワーク、タブレット端末の保守、年次アカウント更新作業を行い、小中学校における業務が円滑に遂行できるようにする。</p>
令和4年度の取組状況	<p>○オンライン学習の推進 オンライン学習の環境を充実させるため、オンライン通信用ノートPC（60台）、書画カメラ（208台）、スピーカーマイク（168台）を購入し、各小中学校へ配布した。</p> <p>○通信ネットワークの強化 不登校児童・生徒の別室登校用教室や中学校の特別教室をはじめとして、タブレットPCの活用が必要である教室（全74教室）へ無線アクセスポイントを増設した。</p> <p>○児童・生徒用タブレットPCの運用 進級に伴う年次更新やOSのバージョンアップへの対応などタブレットPCを活用するために必要な更新作業や故障など不具合発生時の対応を実施した。</p> <p>○大阪府GIGAスクール運営支援センターへの参加 スケールメリットと地域差の解消を目的に広域的に学校運営を支援する機関である大阪府GIGAスクール運営支援センターに参加し、タブレットPCの円滑な運用を図った。</p>		

3. 事業費等

区分		令和3年度 (決算)	令和4年度 (決算)	
事業費	内訳	報償費		
		旅費		
		需用費	25,969,702	
		役務費	2,546,593	2,798,400
		委託料	55,662,747	60,098,390
		使用料及び賃借料		
		工事請負費		
		公有財産購入費		
		備品購入費		15,851,000
		負担金補助及び交付金		2,277,077
		扶助費		
		補償補填及び賠償金		
		その他		
		事業費計	84,179,042	81,024,867
	財源内訳	国庫支出金	6,660,000	6,831,000
府支出金				
市債				
その他				
うち基金繰入金				
一般財源	77,519,042	74,193,867		

4. 事業評価

(1) 関連する施策KPI

KPIの名称	設定した計画名	計画策定時	現状	目標値
全国学力・学習状況調査の標準化得点 (全国学力・学習状況調査)	第2期大東市まち・ひと・しごと創生総合戦略	令和元年度	令和4年度	令和7年度
		【小学校】国語98 算数99 【中学校】国語98 数学97	【小学校】国語98 算数99 【中学校】国語99 数学98	100以上

(2) 評価指標

指標	指標名	区分	目標年次	単位		令和2年度	令和3年度	令和4年度
			目標値					
指標①	無線アクセスポイント設置数	活動	令和5年度	基	目標	497	507	581
			583		実績	497	507	581
	指標の定義	学校の教室に設置している無線アクセスポイントの数						
指標②	ICT機器の活用割合	成果	令和5年度	%	目標	-	100	100
			100		実績	-	80	85.4
	指標の定義	「全国学力・学習状況調査」質問紙における「ほぼ毎日ICT機器を活用」の割合						

5. 担当課評価

担当課評価A (R3評価A)

評価理由	<p>令和4年度は、従前より要望のあった中学校の特別教室に加え、不登校等により教室内で授業を受けることができない児童・生徒が登校する別室に無線アクセスポイントを設置し、タブレットPCを活用して授業を実施できる環境の整備が大幅に進んだ。</p> <p>コロナ禍の影響による臨時休業時や濃厚接触者に該当した児童・生徒に対して、オンライン授業を実施するための機器を購入し、家庭でも円滑に授業を受ける環境が整った。併せて不登校への対応や他校や企業と接続したオンライン授業にも活用が広がりつつある。</p> <p>環境整備が進んだ一方で、ICT活用の上昇率は想定を下回っており、ハード整備と並行してソフト面での支援の充実が求められる。</p>
------	--

◆評価基準 S：目標を大きく上回る成果(100%超) AA：目標どおりの成果(100%) A：ほぼ目標どおりの成果(80%超)

B：目標の成果がやや不十分(80%以下) C：目標の成果があがっておらず、改善を要する(60%以下)

6. 外部評価

外部評価A (R3評価A)

外部評価コメント	<p>令和4年度は一人一台学習者端末の活用に向けて通信ネットワーク環境が強化され、中学校の特別教室などへも無線アクセスポイントが設置され、評価指標①を達成できた。不登校等が増加傾向にある近年の状況を鑑みれば、多様なニーズをもつ生徒の学習ニーズに応える環境整備が進んでいる点は高く評価できる。</p> <p>しかしながら、整備は昨年、一昨年より進んでいる中で、ICT活用率が目標を下回っていた。ICT機器の活用はあくまで「手段」であって「目的」ではないため、活用割合に固執しすぎる必要はないと思われるが、好事例を多様な教科・単元で広く共有することが望まれる。手立てや方針等の再考も必要かも知れない。</p>
----------	--

7. 総括

今後の取組	<p>無線アクセスポイントについては、普通教室や特別教室など最低限必要とされる教室への設置は一定進んだものの、少人数教室など設置されていない教室も残っていることから、今後、タブレットPCの活用状況を踏まえ、設置教室の対象拡大を図っていく。</p> <p>今後、計画的に実施される各小中学校の大規模改修工事に合わせ、長期的な視点によるICTの活用環境を整備する。</p> <p>また、外部評価のコメントにあるように、ICT機器の活用自体が目的化されることがないように、ソフト展開と連動させながら、教員が効果的な活用を進めようとした時に、円滑に取り組めるよう適切な維持管理と必要に応じた環境整備を行っていく。</p>
-------	--

【事務事業評価シート】

評価項目	11
------	----

(担当課) ICT教育戦略課

事業名	【新】ICT活用教育推進事業
-----	-----------------------

1. 基礎情報

総合戦略	④確かな学力の向上と教育環境の充実 (3)次代を見据えた、新しい教育の実施	分野別計画	大東市教育大綱 重点項目 1
------	--	-------	----------------

2. 内容

事業概要 (中長期)	<p>1人1台タブレットPCと高速大容量のネットワーク整備を背景に、ICTを活用した学びの深化と補完的な学習の推進を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> デジタル教材の導入 ICTを活用した授業づくりの支援 プログラミング教育の推進 <p>【実施期間】 令和4年度～</p>	事業概要 (4年度)	<p>ICT活用教育を推進するツールとして、小学校においてはプログラミング学習教材、中学校においてはAI機能等を活用したデジタルドリルを導入する。</p> <p>研修会や教員間の情報共有を通じて、全市的な授業改善を推進する。</p>
令和4年度の取組状況	<p>○ICTを活用した授業づくりの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報教育担当者研修会(全体会5回+中学校区部会4回×8校区)及び希望者を対象としたICT活用研修会(2回)を実施し、有識者及び専門家による講演やスキル表の作成、児童・生徒へのアンケートを通じて、ICT活用指導力の向上に務めた。 小学校でプログラミング教材(LEGOブロック)を購入し、これまで平面的に学んできたことを、より現実的な事象を体感しながら試行錯誤でき、プログラミング的思考の育成活用されている。 中学校でAI型デジタルドリルを導入した(週当たり活用度2月54%、3月29%)。 <p>○教員間の情報共有によるICT活用指導力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員間及び教育委員会とインターネット上で情報を共有するための掲示板「TSP」に、教員がICTを活用した授業実践シートを掲載、情報共有することにより、各教員のICTの活用実践が広がった。 <p>○情報モラルの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 前年度に引き続き、16小中学校で情報モラル教室を開催した。 家庭・地域教育課と連携し、各校で開催した「いくカフェ」で情報モラル講習を実施した。 		

3. 事業費等

区分		令和3年度 (決算)	令和4年度 (決算)
事業費	内訳	報償費	45,000
		旅費	
		需用費	
		役務費	
		委託料	
		使用料及び賃借料	9,882,226
		工事請負費	
		公有財産購入費	
		備品購入費	6,642,900
		負担金補助及び交付金	1,187,076
		扶助費	
		補償補填及び賠償金	
		その他	
		事業費計	17,757,202
	財源内訳	国庫支出金	
府支出金			
市債			
その他			
うち基金繰入金			
一般財源	17,757,202		

4. 事業評価

(1) 関連する施策KPI

KPIの名称	設定した計画名	計画策定時	現状	目標値
全国学力・学習状況調査の標準化得点 (全国学力・学習状況調査)	第2期大東市まち・ひと・しごと創生総合戦略	令和元年度	令和4年度	令和7年度
		【小学校】国語98 算数99 【中学校】国語98 数学97	【小学校】国語98 算数99 【中学校】国語99 数学98	100以上

(2) 評価指標

指標	指標名	区分	目標年次	単位		令和2年度	令和3年度	令和4年度
			目標値					
①	教員のICT活用指導力	成果	令和5年度	%	目標	-	98	99
			100		実績	-	82.8	83.1
	指標の定義	「学校における教育の情報化実態等調査」の「教員のICT活用指導力の状況」の肯定的割合						

5. 担当課評価

担当課評価A

評価理由	<p>新規導入のレゴブロック教材(小学校)、AI型デジタルドリル(中学校)を活用し、プログラミング的思考の育成や個別最適化された授業展開が進んだ。</p> <p>上記の新たな教材に加え、学校訪問での授業視察の結果や冬季休業期間中の全校端末持ち帰り達成など、日常的なICTの活用は進んでいると評価されるが、ICT活用指導力の指標は微増に留まった。今後、子どもたちにどのような力をつけたいのかを意識し、効果的な授業づくりにつながる研修や啓発を進めていくことが課題となっている。</p> <p>以上のことから、日常的な活用は大きく進んでいるものの、さらなるICT活用指導力の向上が必要であることからA評価とした。</p>
------	---

◆評価基準 S：目標を大きく上回る成果(100%超) AA：目標どおりの成果(100%) A：ほぼ目標どおりの成果(80%超)
B：目標の成果がやや不十分(80%以下) C：目標の成果があがっておらず、改善を要する(60%以下)

6. 外部評価

外部評価A

外部評価コメント	<p>小学校でプログラミング教材、中学校でAI型デジタルドリルが導入された。例えば後者では週当たりの活用度が54%になる月が報告される等、ICTを通じた個別最適な学びの実現への可能性も示唆される。他方、目標指標である「教員のICT活用指導力」については、伸び悩みがみられるなど課題も残っている。</p> <p>顔の見えない誹謗・中傷の加害・被害も多数報告されている。被害はもちろん加害者にもなってはならないことを肝に銘じたい。</p> <p>情報モラルの推進については、家庭・地域教育課と連携しながら「いくカフェ」にて情報モラル研修を実施した。今後の展開に期待したい。</p>
----------	--

7. 総括

今後の取組	<p>AI型デジタルドリルについては、研修会の実施等により中学校での活用を促進するとともに、小学校にも導入し、学びの個別最適化を進め学力向上を図る。</p> <p>教員のICT活用指導力を向上するために以下の取り組みを推進する。</p> <p>好事例の情報共有等や研修会の実施により、小学校で購入したプログラミング教材の活用を進める。</p> <p>学校訪問や教員間の電子掲示板の内容充実をはじめ、ICT活用に関する支援体制を強化する。</p> <p>ICTの活用自体が目的とならないよう、子ども達にどのような力を付けたいのかを見据えた効果的なICTの活用方法の検討、情報発信を行う。</p> <p>経験により大きな偏りが生じることがないよう、ICTを活用し客観的なデータを基にした授業づくりの研究を進める。</p> <p>生成AIの普及やSNSによるトラブルの増大など、情報モラルの育成はますます重要な課題となっていることから、委員会としても迅速な情報発信を行い、情報モラル教育の充実を図る。</p>
-------	---

【事務事業評価シート】

評価項目	12
------	----

(担当課) 学校管理課

事業名	学校環境整備事業
-----	----------

1. 基礎情報

総合戦略	④確かな学力の向上と教育環境の充実 (5) 学校施設・設備等の安全性の構築	分野別計画	大東市教育大綱 重点項目 2
------	--	-------	----------------

2. 内容

事業概要 (中長期)	児童・生徒が安心して活動できる教育環境を確保するため、学校施設・設備等の整備を推進する。具体的には、非構造部材の耐震化工事、老朽改修工事、空調設備の整備等を計画的に実施していく。	事業概要 (4年度)	2校の長寿命化改良工事及び2校の長寿命化設計業務に着手(期間:令和4~5年度)。空調については、中学校3校の校舎空調機更新工事、中学校4校の体育館空調機設置工事を実施。その他、深野中学校便所改修工事、通学路安全点検等を実施した。
令和4年度の取組状況	<p>○「大東市小中学校長寿命化計画」に基づき、令和4年10月より住道南小学校と南郷中学校の長寿命化改良工事に着手した。外壁改修や屋上防水、内部改修等に加えて、学校要望に基づく改修も併せて行い、教育環境の質的な向上を図っていく。また、次に工事を予定している四条北小学校・諸福小学校の設計業務に着手した。</p> <p>○空調については、老朽化している中学校3校(深野・北条・谷川)の校舎空調機更新工事を実施した。その中では、より生徒が快適に学べる教育環境を確保出来るよう、空調が未整備だった一部の特別教室についても新たに空調機を設置している。また、災害避難所となる際の、避難者の生活維持を図ることを主目的として、中学校4校(住道・四条・北条・諸福)の体育館にLPガス式の空調機を設置した。</p> <p>○その他、南郷小学校ではバリアフリー化を推進するためにエレベーター増設工事を実施した。深野中学校では老朽化が著しいトイレの改修工事を実施し、大便器の洋式化への変更や乾式の床への更新等を行った。また、大東中学校では機能の劣化(コンクリートのクラック、剥離等)が見られる外壁の改修工事を実施した。翌年度に向けては、深野小学校トイレ改修工事の設計業務、諸福中学校下足室改修工事の設計業務が完了している。</p> <p>○通学路の安全確保については、9月に「大東市通学路安全推進協議会」を開催して道路管理者や警察等の関係機関とともに危険箇所の合同点検を実施し、必要な対策について協議を行った。路面表示の更新やカーブミラーの設置などの一部の対策については、関係機関の協力の下、早期に実現している。</p>		

3. 事業費等

区分		令和3年度 (決算)	令和4年度 (決算)	
事業費	内訳	報償費		
		旅費	6,400	
		需用費		
		役務費		
		委託料	82,181,085	115,234,700
		使用料及び賃借料		
		工事請負費	273,672,500	1,743,965,300
		公有財産購入費		
		備品購入費		
		負担金補助及び交付金		
		扶助費		
		補償補填及び賠償金		
		その他		82,500
		事業費計	355,853,585	1,859,288,900
	財源内訳	国庫支出金	42,558,000	363,491,000
府支出金				
市債		247,400,000	1,180,100,000	
その他			204,473,849	
うち基金繰入金			101,791,000	
一般財源	65,895,585	111,224,051		

4. 事業評価

(1) 関連する施策KPI

KPIの名称	設定した計画名	計画策定時	目標値	出典

(2) 評価指標

	指標名	区分	目標年次	単位		令和2年度	令和3年度	令和4年度
			目標値					
指標①	長寿命化改良工事 実施校数	成果	令和11年度	校	目標	-	-	2
			20		実績	-	-	2
	指標の定義	小学校 12校 中学校 8校						
指標②	空調機（校舎） 更新工事实施校数	成果	令和8年度	校	目標	-	2	5
			20		実績	-	2	5
	指標の定義	小学校 12校 中学校 8校						
指標③	空調機（体育館） 設置工事实施校数	成果	令和8年度	校	目標	-	-	4
			20		実績	-	-	4
	指標の定義	小学校 12校 中学校 8校						

5. 担当課評価

担当課評価A（R3評価B）

評価理由	<p>2校の長寿命化改良工事ではより多くの予算を改修費用に充てるため仮設校舎を用いないローリング方式を採用したが、児童・生徒をはじめ学校関係者の安全確保に万全を期すため、当該工事の一般競争入札では、工種ごとの分離発注ではなく一括発注方式により施工業者を決定した。それにより、効率的な実施体制の下、安全管理・施工管理の徹底が図られている。また、諸福小学校の設計業務では、新たな取り組みとして、一般競争入札ではなくプロポーザル方式により事業者の選定を行った。外部有識者を含む附属機関による審査を経て事業者を選定した結果、確かな技術力・発想力を有する設計事業者と契約を締結することができたことから、単なる大規模改修に留まらない質的な教育環境の向上にもつながる成果が得られるものと考えている。</p> <p>3年度は補助金不採択により延期となった体育館空調についても無事に補助金の採択を受け中学校4校の設置工事が完了し、卒業式から本格的な稼働が始まっているところである。</p> <p>以上の取り組みから、教育環境の改善に寄与できたと考えており、ほぼ目標どおりの成果があったと評価した。</p>
------	---

◆評価基準 S：目標を大きく上回る成果（100%超） AA：目標どおりの成果（100%） A：ほぼ目標どおりの成果（80%超）

B：目標の成果がやや不十分（80%以下） C：目標の成果があがっておらず、改善を要する（60%以下）

6. 外部評価

外部評価AA（R3評価B）

外部評価コメント	<p>全ての評価指標で目標を達成するという快挙のみならず、質的な教育環境の向上に向けて学校環境整備事業を推進した点を高く評価できる。</p> <p>長寿命化改良工事における一般競争入札で、工種ごとの分離発注ではなく、一括発注方式を採用したのは、児童・生徒をはじめ学校関係者の安全確保に万全を期すためであり、プロポーザル方式で業者を選定したことが、単なる大規模改修に留まらない質的な教育環境の向上につながる成果を得られるかもしれない等、常に事業概要（中長期）に示された「児童・生徒が安心して活動できる教育環境を確保する」という本事業の目的を体現するものとなっている。</p>
----------	--

7. 総括

今後の取組	<p>住道南小学校と南郷中学校の長寿命化改良工事では、仮設校舎を用いないローリング方式を採用したものの、施工中の事故もなく概ね順調に工事が進んでいる。また、プロポーザル方式により事業者を選定した諸福小学校の設計業務では、低利用空間の利活用、教室の再配置、特別支援教育の環境整備等、創意工夫に溢れた提案に基づいて実際の業務が進んでいるところであり、これらの経験の中から得られたものを後続の長寿命化整備に活かしていきたい。一方で、現下、労務費や原材料費等が高騰しており、今後は改修に要する財政負担の増加が懸念される場所である。整備水準の維持を図りつつも、長寿命化コストの見直しについては見直しを行っていく。</p> <p>空調機工事については、校舎更新工事、体育館設置工事ともに、中学校の整備が完了後、引き続き小学校の整備工事を進めていく。</p>
-------	--

【事務事業評価シート】

評価項目	13
------	----

(担当課) 学校管理課

事業名	学校給食事業
-----	--------

1. 基礎情報

総合戦略	④確かな学力の向上と教育環境の充実 (4) 多様な教育機会の創出	分野別計画	大東市教育大綱 重点項目 2
------	-------------------------------------	-------	----------------

2. 内容

事業概要 (中長期)	<ul style="list-style-type: none"> 「安全安心な給食」のため、徹底した衛生管理を図る。 「教育の一環としての給食」のため、給食指導の推進を図る。 給食費の公平性を確保するため滞納状況の改善を図る。 	事業概要 (4年度)	<p>小学校給食は自校調理方式、中学校給食はランチボックス再加熱方式（※各校配膳室でおかずの再加熱を行い、温かい給食を提供）により実施。</p> <p>学校給食従事者への衛生研修、小中学校給食指導担当者会議等の実施により、食育指導、給食内容の充実を図る。</p>
令和4年度の取組状況	<p>○アレルギー対応（保護者と面談を行い、大東6大アレルギーに該当する対象者については、除去食または代替食の提供等による対応をしている）</p> <p>○中学校では、生徒への給食アンケートを実施。「給食時間は楽しい」と回答した割合が前年度の67%から77%に増加し、改善傾向にある。（R3年度67%、R2年度59%、R1年度80%）また、「給食が好き・どちらかといえば好き」と回答した割合は前年度の77%から81%に増加し、H26年度から最も高い評価を更新したことから、生徒の給食に対する好感度、質の向上について一定の評価に結びついている。</p> <p>○和食文化の保護、継承のために制定された11月24日の「和食の日」に合わせ、だしを生かした和食献立を実施すると共に、児童・生徒、保護者向けに啓発リーフレットを配布し、食育へのアプローチができた。</p> <p>○「安全安心な給食」のため、小中学校共に衛生検査や巡回、現場の状況に即した内容の従事者への衛生研修を実施し、生命に関わる誤食事故や食中毒事故は発生していない。</p> <p>○「教育の一環としての給食」として小中学校給食指導担当部会を開催し、学校給食指導担当者から、各校の食育授業・給食指導の工夫や課題に対する解決策等を出し合ってもらい、スキルアップに努めた。</p> <p>○R1年度より給食費のコンビニ収納を開始。滞納者には、督促状や催告書の送付を行う一方で、催告に応じない場合は電話催告を行う等の対応を図ったが、コロナ禍により訪問徴収については未実施とした。</p>		

3. 事業費等

区分		令和3年度 (決算)	令和4年度 (決算)	
事業費	内訳	報償費		
		旅費	608,575	615,865
		需用費	400,475,772	464,270,984
		役務費	1,950,440	261,797
		委託料	431,838,019	432,340,727
		使用料及び賃借料	3,220	4,750
		工事請負費		
		公有財産購入費		
		備品購入費	9,334,800	15,486,377
		負担金補助及び交付金	5,000	5,000
		扶助費		
		補償補填及び賠償金		
		その他	1,140	33,675
		事業費計	844,216,966	913,019,175
	財源内訳	国庫支出金		
府支出金				
市債				
その他		289,146,269	295,886,119	
うち基金繰入金				
一般財源	555,070,697	617,133,056		

4. 事業評価

(1) 関連する施策KPI

KPIの名称	設定した計画名	計画策定時	目標値	出典

(2) 評価指標

	指標名	区分	目標年次	単位		令和2年度	令和3年度	令和4年度
			目標値					
指標①	食中毒等重大事案発生件数		令和7年度	件	目標	0	0	0
			0		実績	0	0	0
	指標の定義	学校給食の提供において食中毒や危険な誤食事故など重大事案の発生件数						
指標②	給食が好きと答える生徒の割合		令和7年度	%	目標	80	81	82
			85		実績	68	77	81
	指標の定義	中1生徒を対象とした給食アンケートの質問項目に対する回答割合						
指標③	学校給食費徴収率(現年度)		令和7年度	%	目標	98	98.2	98.4
			99		実績	96.7	96.7	96.9
	指標の定義	小学校及び中学校における給食費の現年度徴収率						

5. 担当課評価

担当課評価A (R3評価A)

評価理由	<p>給食費に関してはコンビニでの納付を実施し、多様な納付機会の提供を図っているが、徴収率をみると昨年度と同水準であるが、中期的には低下傾向にあるので、毅然とした態度で訪問徴収、電話催告など滞納者からの徴収を強化していく必要がある。</p> <p>中学校給食については、生徒アンケート結果から、満足度や質の向上に対する評価は高まっており、概ね良い評価に繋がっていると推察できる。</p> <p>以上より、ほぼ目標どおりの成果が得られたと評価した。</p>
------	---

◆評価基準 S：目標を大きく上回る成果(100%超) AA：目標どおりの成果(100%) A：ほぼ目標どおりの成果(80%超)
 B：目標の成果がやや不十分(80%以下) C：目標の成果があがっておらず、改善を要する(60%以下)

6. 外部評価

外部評価AA (R3評価AA)

外部評価コメント	<p>評価指標①においては、「徹底した衛生管理」と「教育の一環としての給食」という強い責任感と高い意識の賜である。</p> <p>令和4年度も季節を感じられる献立づくりや地元の食材を給食に取り入れる等の工夫が継続され、子どもたちの食育に大いに寄与した。中学生対象のアンケートで「給食の時間は楽しい」と回答した生徒の割合が昨年度から10ポイント上昇して77%、指標②の割合も、4ポイント上昇して81%を記録した。これらの数値は平成26年度以降最も高い評価にあたり、多くの生徒が学校給食に対して満足している様子がうかがえる。</p> <p>食は文字通り生きることに繋がり、しっかりと心と体づくりの基本である。生きる力の源になるばかりか、感謝の心や慈しみの心を育む重要な営みである。安心安全の大切さを体験を通して学ぶ機会でもある。</p> <p>今後も工夫を凝らした取り組みが継続・発展することに期待したい。</p>
----------	---

7. 総括

今後の取組	<p>食中毒事故防止のため、マニュアルに沿った調理場での衛生管理を徹底し、衛生検査、巡回指導、衛生研修を継続的に実施する。「食物アレルギー対応マニュアル」に沿った対応を行うよう学校に対して適宜指導を行い、「安全安心な給食」の提供を実施する。</p> <p>栄養教諭、給食指導担当教諭、調理業者等関係者との連携強化を図り、スペシャル献立の実施、新献立の開発や調理の創意工夫等、給食の質向上の取り組みの推進を図る。</p> <p>「教育の一環としての給食」のため、小中学校9年間の教育計画として、小中学校の給食指導担当者部会での交流と実践を強化し、食育授業や食育指導の充実を図る。</p> <p>小学校給食調理室の大規模改修において、長寿命化改修中である住道南小等の調理室改修が今後のドライ方式の改修モデルとなるよう事業を推進していく。</p>
-------	--

【事務事業評価シート】

評価項目	14
------	----

(担当課) 野崎青少年教育センター

事業名	青少年健全育成事業（野崎）
-----	---------------

1. 基礎情報

総合戦略		分野別計画	
------	--	-------	--

2. 内容

事業概要（中長期）	青少年の健全な育成を推進するため、学習、文化、スポーツ、レクリエーションその他自主的活動を支援する事業やイベント、人権教育、生涯学習等に関する教室等を企画、実施するもの。	事業概要（4年度）	①新型コロナウイルス感染症対策を講じた上で、日常利用や各種事業の企画・実施を行い、子どもたちが楽しく安全に安心して利用できる居場所づくりや、学年や学校の枠を超えた仲間づくりを推進する。 ②日常の挨拶を大切に、施設の利用を通して自主性や責任性、協調性を醸成するなど、青少年の健全育成に取り組む。 ③人権教育を推進し、毎年度実施している平和学習に加えて、いじめ問題について考える学習機会を提供し、いのちを大切にする心や、他者を敬う心を養成するなど、子どもたちに広く人権意識の啓発を行う。
令和4年度の取組状況	<p>○異年齢・他学校との交流をはじめとした居場所づくり、仲間づくりの場を提供した。</p> <p>○日常の挨拶や言葉遣い、施設利用時のルール順守の指導を徹底した。</p> <p>○3年ぶりに小学生を対象とした書道教室を、硬筆/毛筆合わせて年間21回実施した。また、季節に因んだ木工・手芸・料理等各種教室やミニイベントを充実させた。</p> <p>開催事業・教室数：41教室（前年度：13教室） 延べ回数：122回（前年度：43回）</p> <p>○球技など各種スポーツにおける指導や、「チャレンジ企画」として一輪車の走行距離や、輪投げといった挑戦の場を設けて取り組んだ。</p> <p>○通信誌「で・あ・い」で、いじめ問題や平和など、子どもたちに知ってもらいたいことをテーマにした内容を発信したり、12月の人権週間の時期には、一人ひとりができることを各自で考え、メッセージを作成して館内に掲示する取り組みを行った。</p> <p>○利用者の学びの機会の拡大を図るため、タブレットPCを利用したインターネット環境を整備した。</p> <p>○近隣小学校や保育所に対して、けん玉・こま教室等の昔あそび体験教室を行うなど、他機関との連携を進め、交流関係を拡大させた。</p> <p>○「で・あ・い」を周辺の小学校（四条小・深野小・北条小）全児童に配布したり、ホームページ等を活用して施設の情報発信を積極的に行った。</p> <p>・年間通して合計10,927人の利用があった。（前年度：4,774人）</p>		

3. 事業費等

区分		令和3年度 (決算)	令和4年度 (決算)	
事業費	内訳	報償費	306,000	455,800
		旅費		8,660
		需用費	222,625	223,094
		役務費		
		委託料		
		使用料及び賃借料		11,920
		工事請負費		
		公有財産購入費		
		備品購入費		
		負担金補助及び交付金		
		扶助費		
		補償補填及び賠償金		
		その他		
		事業費計	528,625	699,474
	財源内訳	国庫支出金		
府支出金				
市債				
その他		8,180	55,579	
うち基金繰入金			33,439	
一般財源	520,445	643,895		

4. 事業評価

(1) 関連する施策KPI

KPIの名称	設定した計画名	計画策定時	目標値	出典

(2) 評価指標

	指標名	区分	目標年次	単位		令和2年度	令和3年度	令和4年度
			目標値					
指標①	事業参加率	成果	令和4年度	%	目標	90	90	90
			90		実績	88	87	88
	指標の定義	各事業実施時の定員の総数に対する実際の参加者の総数						
指標②	事業実施率	活動	令和4年度	%	目標	-	90	100
			100		実績	-	100	100
	指標の定義	年度当初の実施予定数に対する年間の実施実績数						

5. 担当課評価

担当課評価AA (R3評価A)

評価理由	<p>子どもたちにとっての居場所づくりや、小・中学生が混合で球技を楽しむなど、異年齢・他学校の交流を広めることができた。</p> <p>教室等の主催事業への参加を通して日本の四季を味わったり、伝統文化に触れながら自主性や創造力を育むことができたこと、また人権学習の取り組みを通して命の大切さや平和の尊さを学び、互いに認め合う心を育むことができた。</p> <p>各種スポーツに取り組むことで体力づくりの機会や仲間との連帯感を得たり、諦めない気持ち、チャレンジ精神の大切さを身に付けることができた。</p> <p>広報媒体を活用したり、他機関との交流・連携を推進したことにより、地域における施設のもつ魅力を発信することができた。</p> <p>今後の課題として、学習環境の整備に伴い、学習面での施設利用を促進すること、また利用のルールを順守させるために、職員間でも常に共通認識を持ち、根気よく子どもたちの指導に当たっていく必要がある。</p> <p>以上の内容により、評価指標の実績値並びに年間利用者数の増加など全体的に見て、子どもたちの居場所づくりに十分に貢献できたことから、「AA」評価とした。</p>
------	--

◆評価基準 S：目標を大きく上回る成果(100%超) AA：目標どおりの成果(100%) A：ほぼ目標どおりの成果(80%超)

B：目標の成果がやや不十分(80%以下) C：目標の成果があがっておらず、改善を要する(60%以下)

6. 外部評価

外部評価AA (R3評価AA)

外部評価コメント	<p>「子どもの居場所」を提供することにとどまらず、人権意識の啓発等実に多くのテーマを掲げ、その一つひとつに相応しい取り組みを計画、実行されたことは素晴らしい。学校とは違うセンターの環境はとて有意義だと考える。事業参加率、事業実施率のいずれの側面からみても申し分のない成果と言える。</p> <p>また、施設利用時のルールについては、職員が一定提示・指導しつつも、異学年・他学校との交流内でのルールづくりは子どもたちに任せる等、子どもの自主性を尊重していた点も注目に値し、他者理解や自分で考える力の育成につながっていくと期待できる。今後も先進的・精力的な取り組みを続け、地域の青少年の学び・育ちに貢献していただきたい。</p>
----------	---

7. 総括

今後の取組	<p>子どもたちの居場所づくりとして、異学年、他学校との出会いの場、交流の場となるように、主催事業やスポーツ等の様々な活動を通じて子どもたちの自主性、協調性を育む。</p> <p>規範意識の向上について、子どもたちの日頃の様子にしっかりと目を行き届かせて、指導にあたっては、近隣の小・中学校と必要な情報交換も行いつつ、利用者各々が自主的に利用のルールを守るという意識を高めていけるような指導、取り組みを行う。</p> <p>人権教育の取り組みの中で、子どもたちが自ら考える機会を提供し、いのちを大切に作る心や、お互いを認め合う心を養成する。</p> <p>通信誌「で・あ・い」の配布や、ホームページ等を活用した情報発信を進めるとともに、近隣小学校や保育所等と、けん玉やこまをはじめとした昔あそびを体験できる出前教室等、地域交流を重ねる中で施設の魅力発信を行う。</p> <p>宿題や自習等で学習室を利用する人には、Wi-Fi環境下でのタブレットPCを用いた学習方法を周知して、学びの機会を広める。</p>
-------	--

【事務事業評価シート】

評価項目	15
------	----

(担当課) 北条青少年教育センター

事業名	青少年健全育成事業（北条）
-----	---------------

1. 基礎情報

総合戦略		分野別計画	
------	--	-------	--

2. 内容

事業概要（中長期）	<p>青少年の健全な育成を推進するため、学習、文化、スポーツ、レクリエーションその他自主的活動を支援する事業やイベント、人権教育、生涯学習等に関する教室等を企画、実施するもの。</p>	事業概要（4年度）	<p>①センター職員による独自の事業及び外部講師を招き入れ各種教室事業を展開する。 ②北条地域における一公共施設として、周辺機関と連携を図るべく、様々な事業を展開する。</p>
令和4年度の取組状況	<p>○人権教育の推進 子ども達が、夏休みのラジオ体操をした後、引き続きアニメの人権啓発のビデオ等を見て、人権意識の高揚を図ることができた。両方参加するとスタンプを押すスタンプラリーで工夫した。</p> <p>○青少年の居場所づくり 各種事業、室内遊びやスポーツ活動を通じての居場所づくりとそれらを通じて、子どもたちのエンパワーメントを育成するとともに、言葉遣いや集団のルールを学ぶなどの人権教育も行った。</p> <p>○青少年の生涯学習の場 事業の内容を見直し創意工夫を行った。結果として、①学力ゼミ(35回)②習字(13回)③農園(9回)④音楽(52回)⑤ダンス(31回)⑥工作(31回)⑦人権教育(8回)⑧スポーツ(7回)⑨太鼓教室(6回)⑩絵手紙教室(2回)⑪異文化(3回)⑫科学教室(2回)計12教室199回実施した。音楽、ダンス教室については、ふれ愛教育協議会主催の「ふれ愛フェスティバル」に参加することができた。また、「親と子のふれあい釣り大会」を実施することができた。</p> <p>また、地域の高齢者に毎週3回、及び障がい者団体に年間2回、スポーツ活動の場の場を提供し、交流を図ることができた。</p> <p>○広報活動 センター通信「北斗」の毎月発行及び、市ホームページ及びFacebookの活用を通じて、事業の案内やコラムのコーナーを通じて人権啓発を行った。</p> <p>来館者数 9,193人（R3年度4,730人）</p>		

3. 事業費等

区分		令和3年度 (決算)	令和4年度 (決算)	
事業費	内訳	報償費	245,000	611,000
		旅費		
		需用費	166,184	305,747
		役務費		
		委託料		
		使用料及び賃借料		72,700
		工事請負費		
		公有財産購入費		
		備品購入費	89,000	449,890
		負担金補助及び交付金		
		扶助費		
		補償補填及び賠償金		
		その他		
		事業費計	500,184	1,439,337
	財源内訳	国庫支出金		
府支出金				
市債				
その他		22,380	65,800	
うち基金繰入金				
一般財源	477,804	1,373,537		

4. 事業評価

(1) 関連する施策KPI

KPIの名称	設定した計画名	計画策定時	目標値	出典

(2) 評価指標

	指標名	区分	目標年次	単位		令和2年度	令和3年度	令和4年度
			目標値					
指標①	事業参加率	成果	令和4年度	%	目標	80	80	80
			80		実績	66.1	59.9	67.5
	指標の定義	センターが実施する各種教室事業の定員に対する参加率の平均値						
指標②	事業実施率	成果	令和4年度	%	目標	100	100	100
			100		実績	81.8	83.3	100
	指標の定義	センターが実施する各種教室事業数に対する実施率の平均値						

5. 担当課評価

担当課評価A (R3評価A)

評価理由	<p>日常活動や遊びの中で挨拶やルールの指導、人権教育も行いながら居場所づくりも行った。一部の事業参加率は低いものの、多くの事業については、例年並みの参加率からニーズの高さが伺える。また、運動広場も市内では数少ない「ボール遊びのできる場」であり、ほぼ利用されていることから、放課後や学校の長期休暇中における遊び、交流の貴重な場となっている。地域連携については、ほぼ予定された事業に参加できた。広報活動については、センターだより「北斗」をセンター周辺の小中学校に配布することで周知を図った。今年度はコロナ禍の中で教室参加者数が若干少なかったものの、工夫を凝らしできる限り実施できたことで、総合的に勘案し、評価Aとした。</p>
------	--

◆評価基準 S：目標を大きく上回る成果(100%超) AA：目標どおりの成果(100%) A：ほぼ目標どおりの成果(80%超)
 B：目標の成果がやや不十分(80%以下) C：目標の成果があがっておらず、改善を要する(60%以下)

6. 外部評価

外部評価A (R3評価AA)

外部評価コメント	<p>北条の同事業は、これまで同様人権教育・生涯教育等に関する取り組みを精力的に実施し、青少年の居場所づくりに貢献した。 特に、人権教育にも熱心に取り組まれていることが伝わってくる。テーマを決めての学びは重要であるし、繰り返し行うことでより意識化されるものと思う。多くの子どもや、大人も混じってかかわりあう中で、見つかる人権的学びもあるかと思う。学校とは違う雰囲気や環境の中での学びは大きな力になる元と考える。</p>
----------	--

7. 総括

今後の取組	<p>文化、スポーツ活動を通じて挨拶や言葉使い、集団のルールを守ることの大切さを学ぶために、異年齢の子ども達の交流を図り活動を通じて人権教育を行います。そして、子ども達が安心して過ごせる「居場所づくり」と自主的に学ぶ「生涯学習の場」を提供する教室の実施を中心とした事業を継続していく。 また、ふれ愛教育協議会の各事業に参画していくことで、地域と連携して、センターを円滑に運営していきます。</p>
-------	---

第3 点検・評価に関する学識経験者からの意見

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条に基づき、点検・評価の客観性を確保し、教育行政を推進するうえで参考とさせていただくという観点から学識経験者の意見をいただきました。

教育総務部・学校教育政策部の取り組みについて

令和4年度は、引き続き新型コロナウイルス感染症の影響により各小・中学校の休校や事業の延期、変更などが行われる中、オンラインを活用して事業を実施するなど、それぞれの事業において創意工夫を行い、活動を止めないための意欲的な取り組みが見られました。

学力向上推進事業については、教員の授業力をはじめとする、教師力向上のための取り組みに対する創意工夫、継続、そのことによる学力向上事業の充実振りは特筆に値します。大東教員スキルアップ講座、出張スキルアップ講座が立ち上がってから数年経ちますが、手探りでスタートし、参加者の極めて少ない状況に頭を抱えていた当初を思うと、素晴らしい成果であると感じています。教育ビジョンの活用が進み、授業科目にかかわらず、子どもの学び方や学ぶ姿に視点を当てる取り組みが、教員にとって最も意識しなければならないことだと思えます。今後その視点についてさらに考察を深め、子どもたちの学びの結果だけではなく過程を大切にしたい具体的な評価の仕方等について共有できるようになればと願います。

教育研究推進事業の柱になるのは、「大東教育ビジョン」です。「意図する」「ゆだねる」「見取る」「つなげる」の意味をすべての教員がしっかりと理解し、我が校、我が組の実態を把握した上で、常に念頭に置いて実践に励むことが事業の成就には欠かせません。大東市の教育的風土として、何より教材研究を大切にするとともに、どんな子ども、人に育てようとするのか、そのためにどんなことが必要か等をあちらこちらで語り合われる市になってほしいと願います。

また、学校支援事業については、目標指標「授業等支援員の適正配置」及び「部活動指導員配置校における顧問教員の指導時間削減率」は、いずれも昨年度より低い達成率となりました。これは、部活動指導員の活用校が増えた一方、例えば指導員が大学生の場合、学生の要望により顧問教員が部活動に同伴するケースがあるため、結果的に教員の負担軽減につながっていないとのでありました。部活動指導員の問題は、外部人材の活用を進める中で必然的に生じるものであり、大東市に限らず各地で共通の課題になっていると思われるため、教職員が適正な業務負担となるようさらなる議論・対策が求められます。

言語活動推進事業は、子どもたちの「言葉の力」を育てることが最大の目的です。「確かな学力」、「豊かな心」は確かな言葉の力なくしては実現しません。読書活動や学校図書館を活用することは「言葉の力」にとって大変有効な取り組みです。また、一般的に校内で孤立しがちな司書に焦点化した支援が実施され、司書が相談しやすい体制が構築されました。こうした取り組みが功を奏したのか、1学期に図書館の環境整備が進み、2学期以降は子どものサードプレイスとして図書館が活用されるといった様子が報告されました。司書にとっても児童生徒にとっても居心地のよい空間が創出されつつある点は、大いに注目できます。

家庭教育支援事業については、令和4年度も従来のアウトリーチ型・サロン型・セミナー型の支援を継続するとともに、地元企業とも連携しながら家庭教育支援が強化されました。例えば「い

くカフェ」では、従来型の教育委員会内の家庭教育支援チームが主導するものに加えて、登録企業・団体が主催する「企業版いくカフェ」が新たに導入されました。

不登校支援・教育相談事業については、コロナ禍の影響等から不登校が増加傾向にある中で、①研修会、②教育支援センター「ボイス」、③教育相談室、④不登校指導員の取り組みから事業が展開されました。研修の実施や、「学びへのアクセス100%」の考え方が多様な媒体を通して周知された点は高く評価できます。②及び③については、利用人数・相談件数が増加していることから、ニーズの高まりを見て取れます。大東市では、元教員や現役の大学生などから構成される④「不登校指導員」の取り組みに加え、上述の「ボイス」におけるICT教育の拡充など個別最適な学習機会の提供も試みられているため、引き続ききめ細かな支援に期待したいです。

ICT活用教育推進事業については、GIGAスクール推進事業との両輪として捉えています。子どもたちにどのような力をつけたいのかを意識し効果的な授業づくりにつながる研修や啓発を行っていくことが、何より大事だと考えます。時間をかけて「どんな力をつけたいのか」について議論を重ねていただきたいと思います。

学校環境整備事業においては、全ての評価指標で目標を達成するという快挙のみならず、質的な教育環境の向上に向けて学校環境整備事業を推進した点を高く評価できます。事業概要（中長期）に示された「児童・生徒が安心して活動できる教育環境を確保するため、学校施設、設備等の整備を推進する」を大事にされている姿が素晴らしく、とてもありがたく感じます。子どもの教育にかかわる大人の心持として何はなくても共有したい思いです。校舎を居心地のよい空間にすることは、問題行動や不登校の軽減はじめ様々に良い教育効果をもたらすと期待できるため、今後も本事業の展開に期待します。

学校給食事業について、令和4年度も季節を感じられる献立づくりや地元の食材を給食に取り入れる等の工夫が継続され、子どもたちの食育に大いに寄与しました。また、食中毒等重大事案が発生していない事実は、「徹底した衛生管理」と「教育の一環としての給食」という強い責任感と高い意識の賜であると確信します。給食が好きと答える生徒の割合も上がってきており取り組みが着実に成果になってきていることをうかがい知ることができます。食は文字通り生きることに繋がり、しっかりと心と体づくりの基本です。生きる力の源になるばかりか、感謝の心や慈しみの心を育む重要な営みです。今後も工夫を凝らした取り組みが継続・発展することに期待します。

青少年健全育成事業は、単に「子どもの居場所」を提供することにとどまらず、異学年・他学校との交流を積極的に図る中で、高次の次元で「青少年の健全育成」を推進していた点で高く評価できます。また、人権教育にも熱心に取り組まれていることが伝わってきます。テーマを決めての学びは重要であるし、繰り返し行うことでより意識化されるものと思います。多くの子どもや、大人も混じってかわりあう中で、見つかる人権的学びもあるかと思えます。学校とは違う雰囲気や環境の中での学びは大きな力になる元と考えます。

最後に、本評価報告書の作成にあたり、各事業評価や指摘事項等が少しでも今後に向けた事業の改善や充実につながり、大東市の教育行政の着実な発展の一助となることを期待します。

令和5年8月30日

元大東市立小学校長 福崎 隆信
大阪産業大学准教授 西野 倫世

○令和4度事務事業の評価のまとめ

【各事業の評価基準】

S：目標を大きく上回る成果が得られた(100%超)

AA：目標どおりの成果が得られた(100%)

A：ほぼ目標どおりの成果が得られた(80%超)

B：目標の成果がやや不十分である(80%以下)

C：目標の成果があがっておらず、改善を要する(60%以下)

部	評価項目	事業名	担当課	事務事業の評価	
				自己評価	外部評価
教育総務部・学校教育政策部	1	学力向上推進事業	教育研究所	A	A
	2	教育研究推進事業	教育研究所	A	A
	3	学校支援事業	指導・人権教育課	A	A
	4	言語活動推進事業	教育企画室/教育研究所	AA	AA
	5	家庭教育支援事業	家庭・地域教育課	AA	AA
	6	不登校支援・相談事業	指導・人権教育課	A	A
	7	特別支援教育充実事業	指導・人権教育課	A	A
	8	英語教育推進事業	指導・人権教育課	A	A
	9	地域とともにある学校づくり事業	教育企画室	A	A
	10	G I G Aスクール推進事業	I C T教育戦略課	A	A
	11	【新】I C T活用教育推進事業	I C T教育戦略課	A	A
	12	学校環境整備事業	学校管理課	A	AA
	13	学校給食事業	学校管理課	A	AA
	14	青少年健全育成事業（野崎）	野崎青少年教育センター	AA	AA
	15	青少年健全育成事業（北条）	北条青少年教育センター	A	A

* 担当部課については令和5年度現在

○評価ランク数

評価ランク	自己評価	外部評価
S	0	0
AA	3	5
A	12	10
B	0	0
C	0	0

○自己評価と外部評価の割合(%)

評価ランク	自己評価	外部評価
S	0	0
AA	20	33
A	80	67
B	0	0
C	0	0

* (評価数÷全15評価項目×100)